

市民フォト KAGOSHIMA 鹿児島

特集・鹿児島と美術家たち

No.54

平成5年(1993年)10月1日



わがまち高度

350M

●西別府町・大峯団地付近

写真中央、鹿児島流通業務団地と宅地、公園などからなる大峯団地を眺めてみた。ここは、九州縦貫自動車道と指宿スカイラインの接点・鹿児島インター(写真中央上)から約1km、南九州西回り自動車道に沿う、交通の要衝にある。

鹿児島開発事業団によって造成された鹿児島流通業務団地の総面積は約61.4ha。卸売業や運送

業を中心に流通業務を主とした企業が立地している。各企業とも平成2年から次々と操業を開始、今年中には立地の全企業がフル操業に入る予定である。県内の物流拠点として、物流の近代化、効率化に果たす役割が今後ますます大きくなっているものと期待される。



●「表紙」写真説明

木々の香氣を浴びながらフィールドアスレチックに汗を流す。丘の斜面につくられた二十種類の雑園は、スポーツが大好きなわたしでも全部をこなすのに苦労しそう。さあ、ゴールのロケットの広場まで、だれが一番早くたどりつくかな? (花と緑とロケットの公園・錦江湾公園にて)
(人物は、ミス鹿児島の植村紀美子さんと知り合いの子どもたち)



市民フォト鹿児島 No.54 【もぐじ】

わがまち高度350m

特集／鹿児島と美術家たち

クローズアップ(中村隆司さん)

学校探訪(明和小学校)

カメラトピックス

ハロー鹿児島(国際交流キャンプ)

シティーアンダル

わたしの散歩道(五代夏夫さん)

市民のひろば(夢は宇宙へ)

ふるさとの史跡(内城内に建てられた瑞雲山大龍寺)

集え! 楽し(広木蛇味線バンド)

あなたのフォトサロン(水のファンタジー)

平川動物公園のゆかいな仲間たち

市立美術館「群老雅遊の図」

31

30

29

28

29

27

26

25

24

21

22

23

24

21

19

18

24

21

20

21

24

21

19

18

24

21

17

16

17

15

14

13

17

15

16

11

特集 鹿児島と美術家たち



黒田 清輝「アトリエ」1890年(市立美術館蔵)

最近、美術作品を鑑賞していますか? 最近、美術作品の制作に取り組んでいますか?

鹿児島は美術への興味や関心が高い土地柄。鑑賞や作品発表の機会に大変恵まれています。それと いうのも、黒田清輝、藤島武一、和田英作ら日本近代洋画の確立に貢献した人々をはじめ、日本の美術界をリードする人材を生み出してきた伝統があり、それがさまざま な形で鹿児島の美術界、鹿児島の文化に受け継がれているからでし ょう。

今回の特集では、近代以降の鹿児島出身の美術家や鹿児島をモチーフにした美術家の作品を中心 に紹介します。あなた自身の感性で、日本を代表する美術家たちの作品と向き合ってみませんか。

日本への洋画導入

4



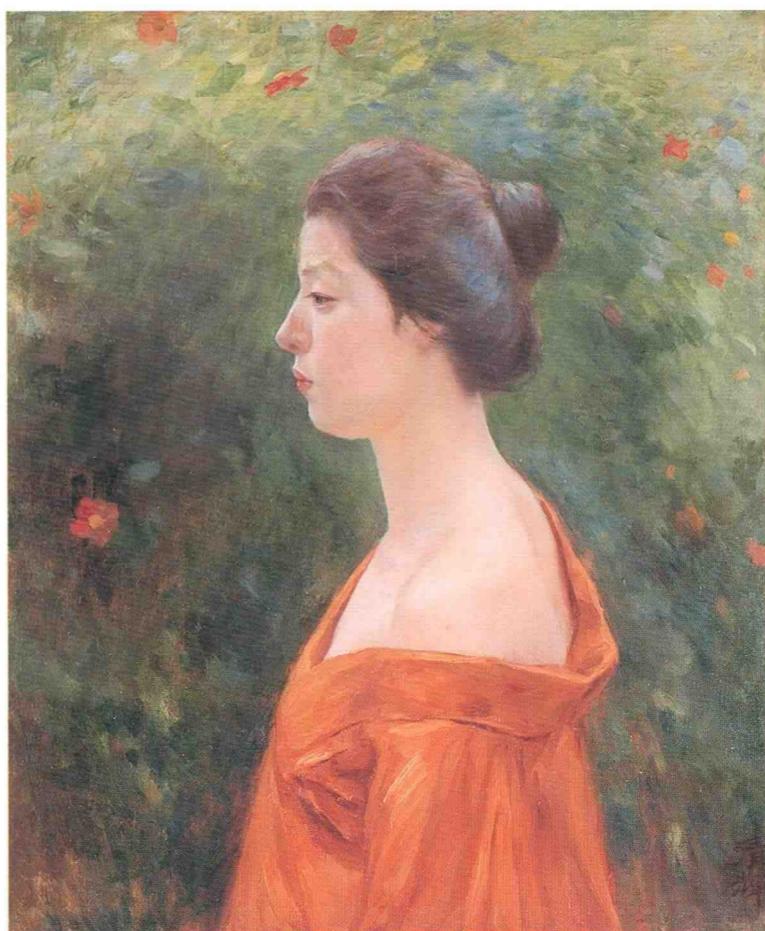
床次正精「西郷肖像」1887年頃
(市立美術館蔵)



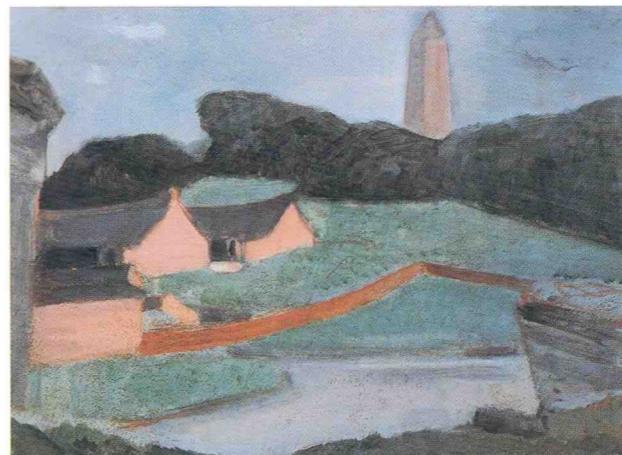
曾山幸彦「上野東照宮図」1890年
(市立美術館蔵)



藤島武二「日の出」(長島美術館蔵)



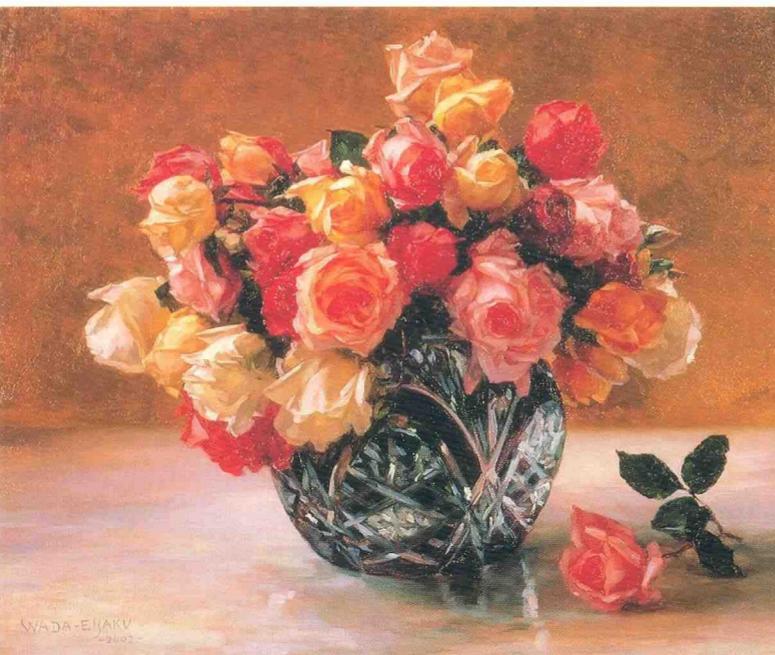
黒田清輝「赤き衣を着たる女」1912年(県歴史資料センター黎明館蔵)



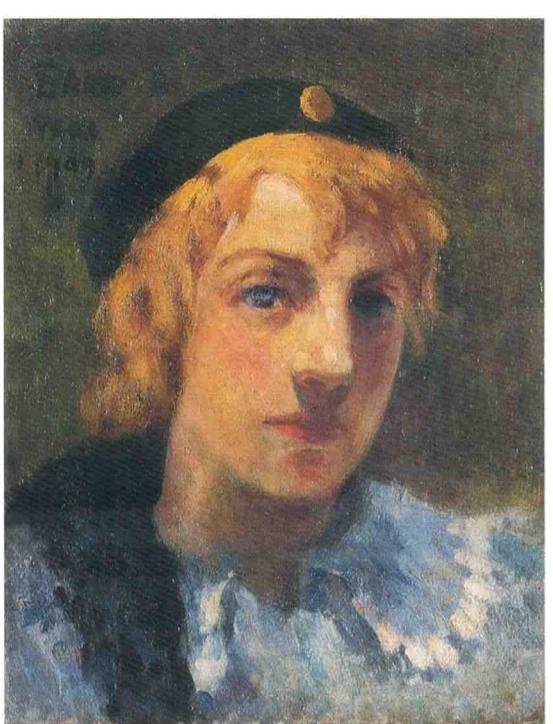
藤島武二「中国風景」1938年(市立美術館蔵)



和田英作「富士(河口湖)」1926年(県歴史資料センター黎明館蔵)



和田英作「バラ」1942年(長島美術館蔵)



有島生馬「スザンナ」1909年(市立美術館蔵)



橋口五葉「化粧の女」1918年(市立美術館蔵)

有島の見い出した 画家たち

黒田、藤島、和田の後の日本洋画界をリードしていく人物に有島生馬(一八八一~一九四四)がいる。画才と文才を兼ね備えていた有島は、卓越した批評眼で海外美術思潮をいち早く導入し、また二科会を創設、新人作家の発掘にあつた。この後の郷土作家たちの多くが有島により見い出されている。

東郷青児(一八九七~一九七八)はフランス留学で最新の美術思潮にふれ、帰国後、モダン

かたちで日本における洋画のありかたを探っていく。鹿児島で日本画を学んでいた藤島は油彩を学ぶため上京、東京美術学校助教授を経てイタリアへ留学。帰国後は日本的、また東洋的な情趣を生かした装飾的な作品をよくした。藤島と同じく曾山の門に学んだ和田は黒田の薦めで渡仏、コランに師事し、西洋の伝統的な手法である厳しい写実描写を貫いた画家である。

ここに一人、異色の作家が登場する。大正の歌麿と称された橋口五葉(一八八一~一九二二)である。初め日本画を学んでいた五葉は黒田の勧めで油彩も学び、そして、商業美術の分野でポスター、本の装丁なども手がけている。さらに浮世絵研究の第一人者として知られ、晩年は浮世絵の技法による木版画で清新な美人画をよくした。

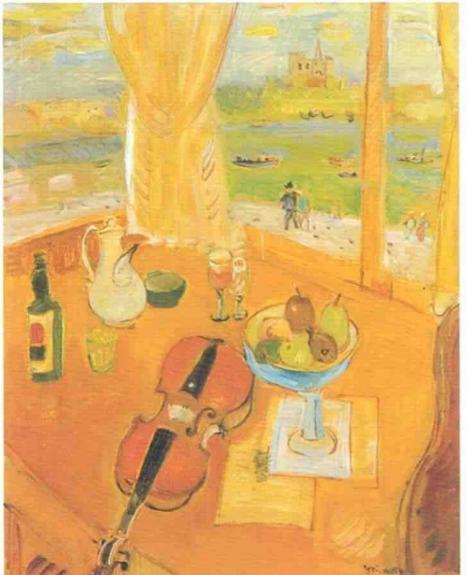
真に洋画を日本に根付かせた第一の功績者は黒田清輝(一八六六~一九一四)である。法律の勉強に渡仏したが、幼少からの画才を生かそうとラファエル・コランに師事、印象派風の外光表現は紫派と呼ばれた。東京美術学校西洋画科教授に就任、白馬会を結成、その後も画壇の中心人物として日本洋画を推進していく。

続く藤島武二(一八六七~一九四三)と和田英作(一八七四~一九五九)の二人が、それぞれの

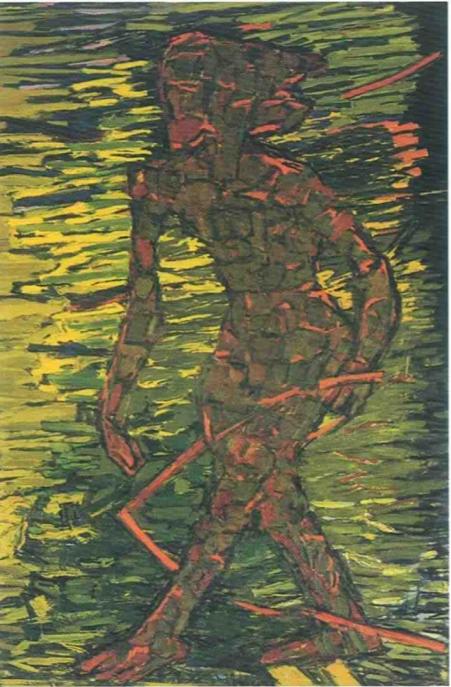
精(一八四二~一八九七)と曾山幸彦(一八五九~一八九二)をその先駆者として挙げられる。床次は天保年間の生まれで、島津久光の命により長崎に出向いた際、イギリスの油彩画と出会い、その迫真的な写実表現に魅せられ、以後、独学で油彩画を研究した。一方、曾山は最初に正式な洋画技法を学んだ人物で、工部美術学校でイタリア人画家のサン・ジョヴァンニに師事した。しかし、二人とも国内での研究に留まり、直接的な洋画研究は次世代を待たねばならなかつた。



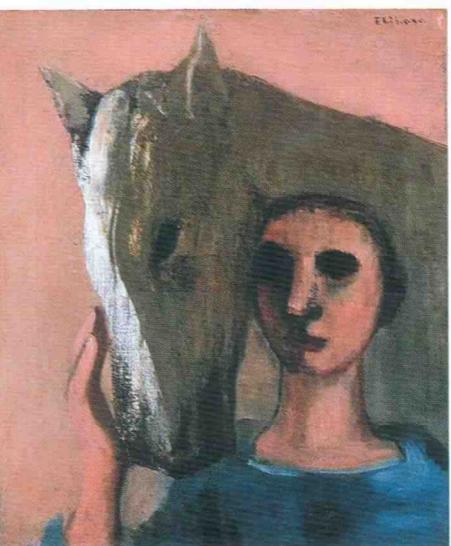
安藤 照「女の首」1923年
(市立美術館蔵)



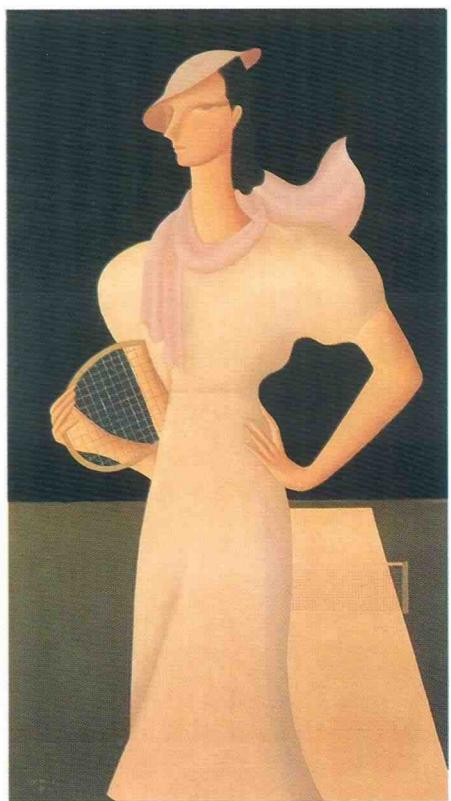
堀之内一誠「窓辺」1977年(市立美術館蔵)



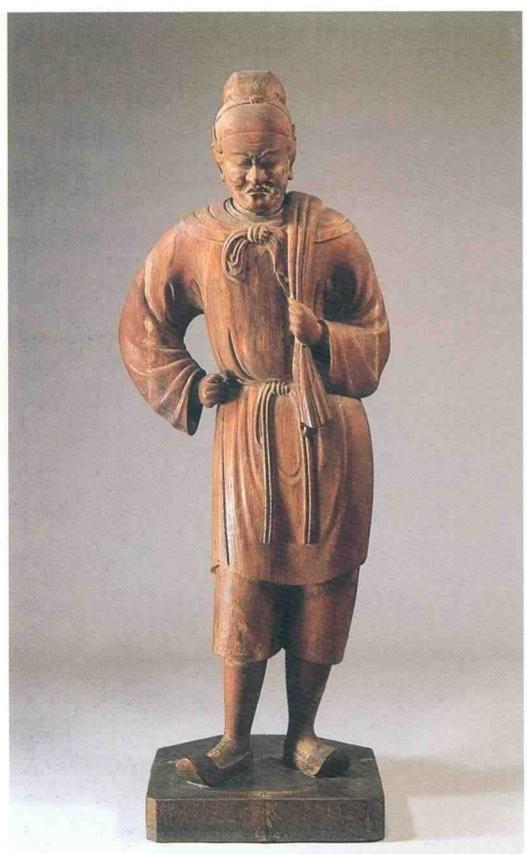
中間冊夫「歩く人」1957~1960年
(三宅美術館蔵)



海老原喜之助「人と馬」(児玉美術館蔵)



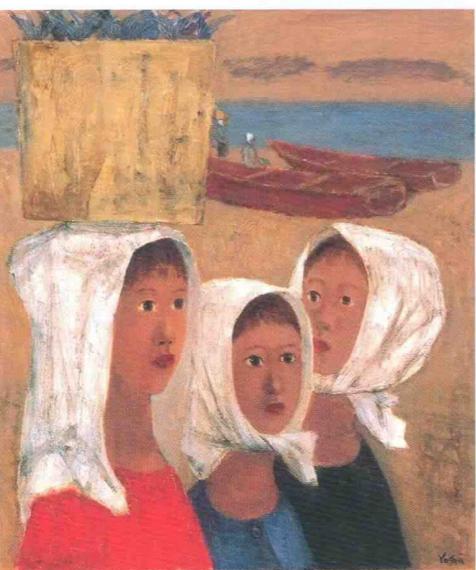
東郷青児「テニスコート」1934年(長島美術館蔵)



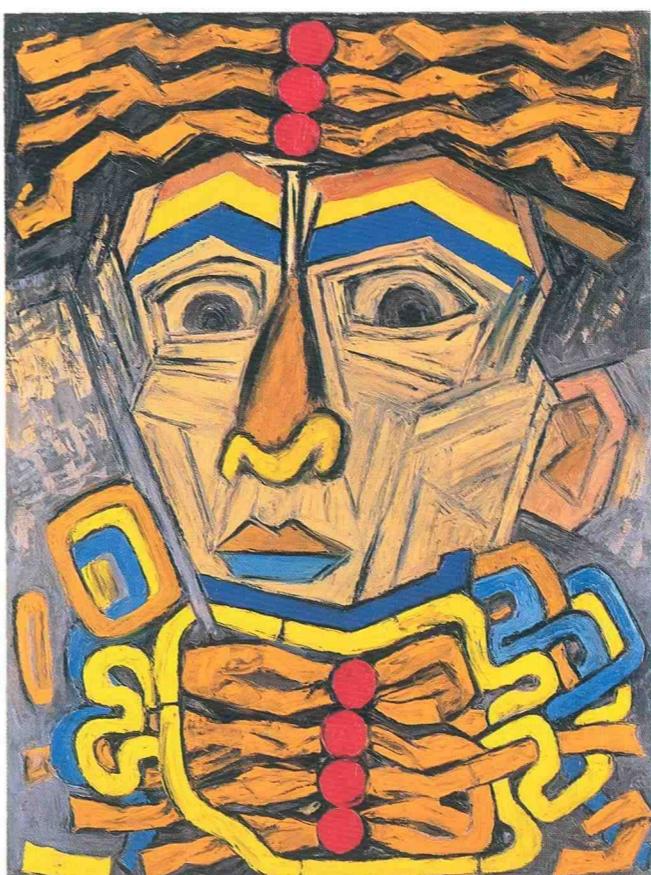
新納忠之介「大黒天」1914年(市立美術館蔵)



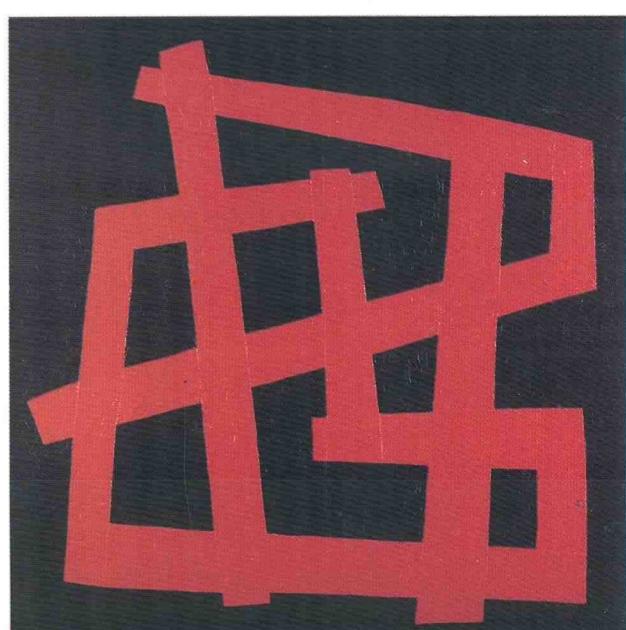
中村晋也「MAE嬢」1990年
(市立美術館蔵)



吉井淳二「浜の子供たち」1967年(長島美術館蔵)



海老原喜之助「男の顔」(三宅美術館蔵)



山口長男「構成(赤)」1955年(市立美術館蔵)

鹿児島の近現代彫刻

市立美術館隣りの西郷隆盛像の作者として知られる安藤照(一八九二~一九四五)は第二中学校卒業後上京し、藤島武二の紹介で塑造を学ぶ。その作風は東洋的な感性に根ざした、素朴で温かみのあるもので、東京渋谷駅前の大仏公像はその代表的なもの。太平洋戦争の東京大空襲により自宅アトリエで非業の死を遂げた。

戦後の彫刻界には、鹿児島大学で教鞭を執り後進の育成を図ると共に、詩情あふれる具象像や多くの郷土的なモニュメントを制作している中村晋也(一九二六-)がいる。

明治元年生まれの新納忠之介(一八六八~一九五四)は岡倉天心の命を受け、国宝の保存修理監督となり生涯に二千四十二体の木彫像を修理した。また、日本美術の研究のため新納のもとへ入門していたウォーナー博士と共に、太平洋戦争中の京都と奈良を大空襲より守るべく尽力し、その古美術保存に対する功績は図りしれない。

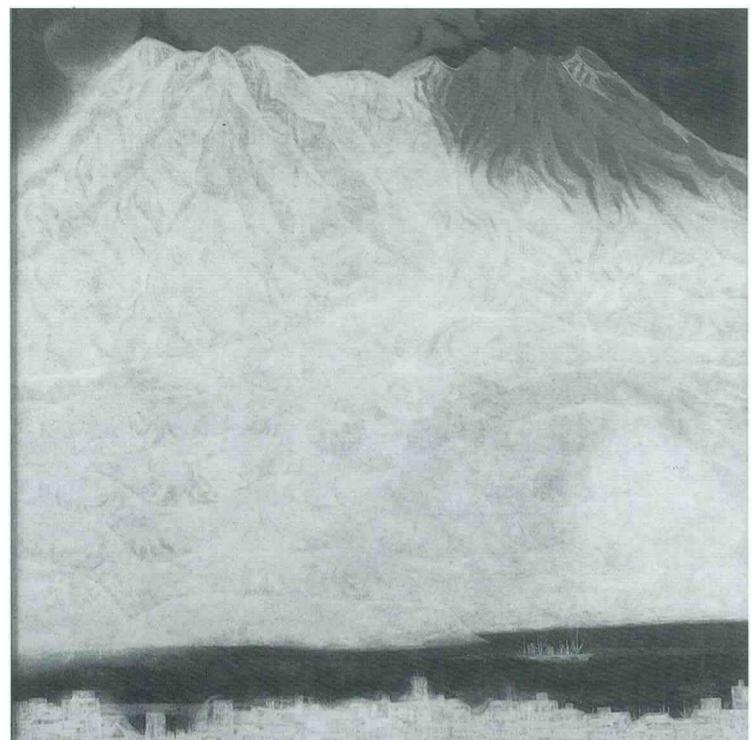
独立協会の二人の画家、中間冊夫(一九〇八~一九八五)と堀之内一誠(一九〇八~一九八〇)は共に川辺中学校で学んだ同級生だが、中間の時に暗く重厚な画面と、堀之内の明るく軽快な色調は極めて対照的である。

海老原と共に上京し油彩を学んだ吉井淳二(一九〇四)は師匠の和田英作の下りの写実表現で農漁村・市場で働く人々の生活感あふれる場面を描き続けている。

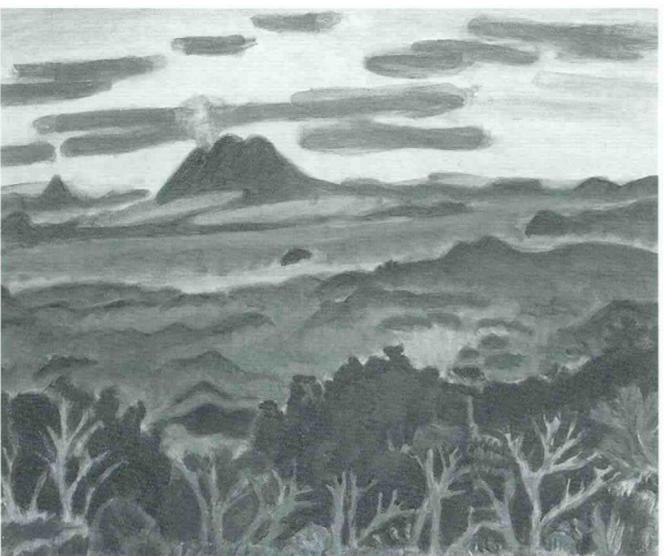
海老原喜之助(一九〇四~一九七〇)はパリで藤田嗣治の薰陶を受け、「エビハラブルー」の名で知られる青を基調とした雪景色、馬をモチーフにした作品、原色と荒々しいフォルムによる人間像などを描き、パリで客死した。

山口長男(一九〇二~一九八〇)は一貫して独自の絵画理念を追求し、日本の抽象絵画のパイオニアとして活躍した。その悠久の時を感じさせる揺るがないフォルムは、自然の本質のみを表していて、国際的にも高く評価されている。

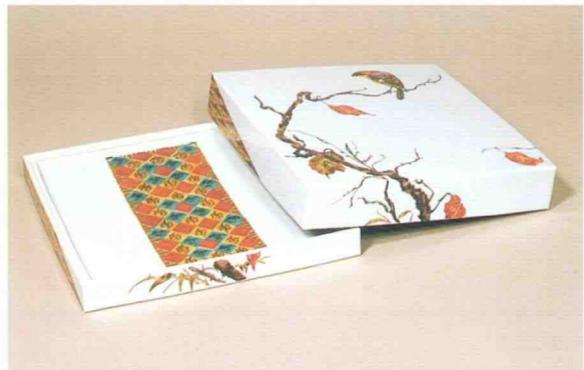
海老原喜之助(一九〇四~一九七〇)はパリで装飾的な独特的のスタイルを確立、優美な女性像を描いた。戦後の二科会再建の功績も大きい。



西山英雄「薩摩雪」1978年(市立美術館蔵)



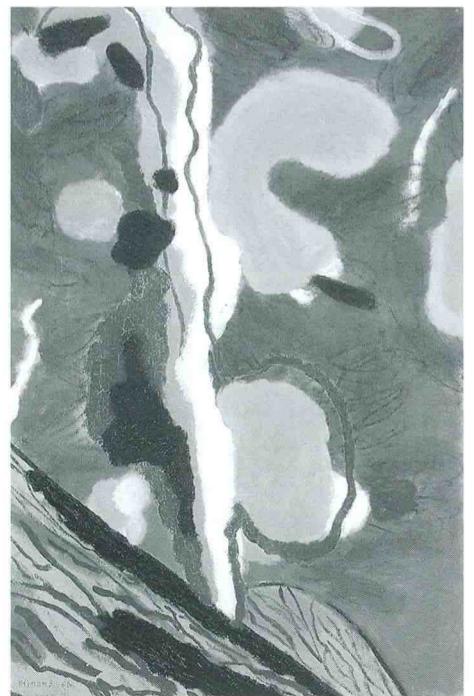
梅原龍三郎「霧島」1939年(県歴史資料センター黎明館蔵)



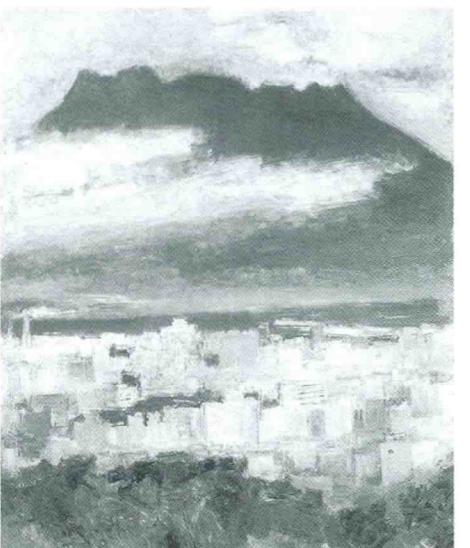
藤本能道「色絵枯葉小禽図四角笛」1980年(市立美術館蔵)



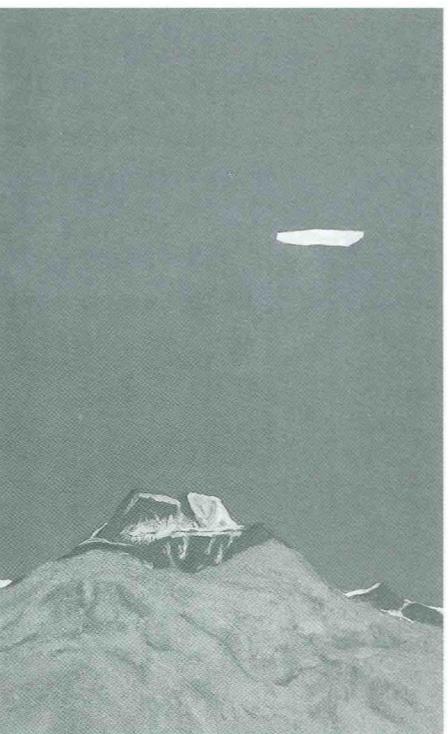
宮之原 謙「象嵌磁泰山木大皿」1976年(市立美術館蔵)



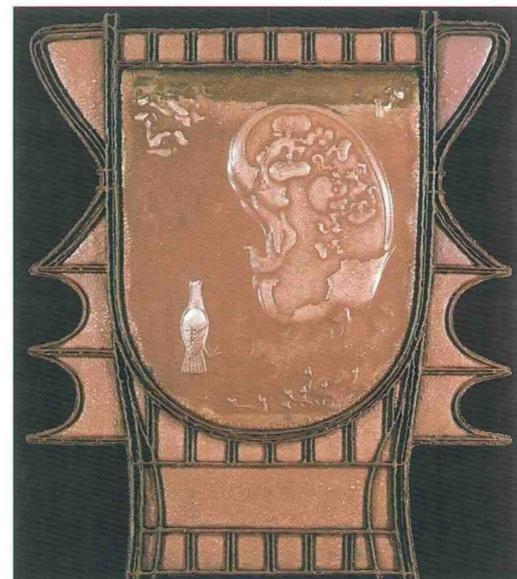
曾宮一念「南岳爆発」1961年(市立美術館蔵)



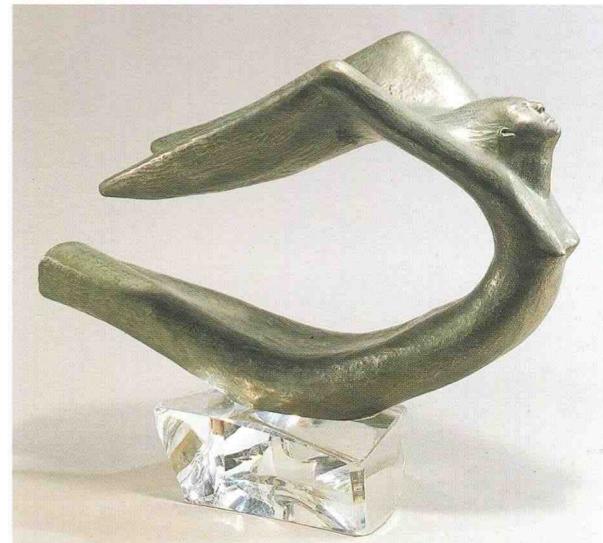
岩下三四「桜島 夏」1983年(長島美術館蔵)



田村一男「西桜島ゆきのあしたの日本晴」
1973年(市立美術館蔵)



帖佐美行「轟」1971年(市立美術館蔵)



染川鐵之助「白銅レクイエム」1977年(市立美術館蔵)

伝統工芸としての薩摩焼や薩摩切子の制作が受け継がれている一方で、独自の世界を切り拓いていった作家たちがいる。大学で建築を学んでいた宮之原謙(一八九八~一九七七)は、身近な現代的モチーフを幾何学的にデフォルメした端正な作風で知られる。同じ鹿児島市工芸研究所に籍を置いた藤本能道(一九一九~一九九二)も釉描加彩という新技法の発明者であり、人間国宝にまでなった。この技法は、素焼きの段階で色釉により下絵を付けておき、色絵に奥行きを出すといったもので、自分の写実描写の才を活かすために編み出されたものである。

金工では鍛金の染川鐵之助(一九二一~一九八二)が静ひつな中に淡い詩情をたたえた作品を生み出している。彫金の帖佐美行(一九一五~)は力強さと優美さを兼ね備えた作風で知られ、鉄パイプを素材として取り入れたり、建築装飾としてのレリーフを制作したりと、新しい表現方法の開拓に積極的である。

桜島をモチーフにした作品

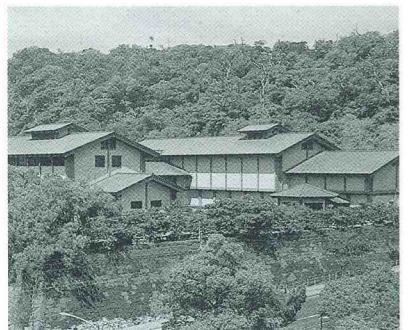
描かれた鹿児島、言い方を変えれば鹿児島をモチーフにした作品の中で最も多く取り上げられたのは桜島の雄姿だろう。その南国の方強さに満ちた威容は鹿児島の代名詞でもある。それ以前は、あまり描かれていない桜島も近代以降は多くの画家たちを魅きつけている。これは、留学先のイタリアで出会ったベスピオ火山との類似性という視点から桜島を取り上げた梅原龍三郎(一八八八~一九八六)の影響が大きかったようだ。

西山英雄(一九一~)は、雪に染まつた優美な「薩摩雪」と燃え上がる力強い『噴炎』の二点で、桜島の両極の姿を捉えている。田村一男(一九〇四~)は、大胆な画面構成で東洋的な間を活かした独自の桜島図を描いている。

鹿児島にゆかりの美術品・身近な鑑賞空間

市立美術館や県歴史資料センター黎明館、
市内の私設美術館では、それぞれ個性ある展示空間で、
郷土関連の作家の作品を鑑賞することができます。

黎明館



黎明館

鹿児島の歴史・風土や文化を紹介する常設展示。部門別展示の「美術・工芸」部門では、薩摩焼や日本画・版画・洋画・彫刻などを展示しています。鹿児島出身の床次正精、曾山幸彦、黒田清輝、藤島武二、和田英作、橋口五葉、有島生馬、安藤照などの作品を鑑賞することができます。

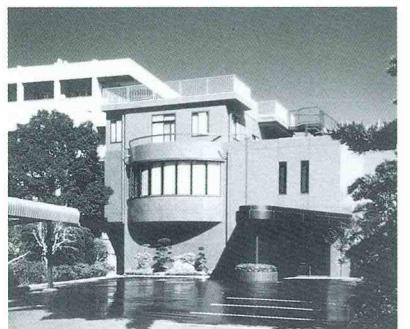
【開館時間】9時～17時(入館は16時30分まで)

【休館日】月曜日(祝日のときは翌日)、12月28日～1月4日

【観覧料】小・中学生100円、高・大学生150円、一般260円

【所在地】鹿児島市城山町5-1 ☎(22)5100

三宅美術館



三宅美術館

昭和以降の現代作家の洋画と古薩摩琉球のやきもの、現代陶器などを展示。郷土関連作家の絵画として、海老原喜之助、中間冊夫、吉井淳二、岩下三四などの作品を鑑賞できます。

【開館時間】10時～16時30分

【休館日】月曜日(祝日のときは翌日)、12月29日～1月3日

【観覧料】小・中学生100円、一般(高校生以上)300円、敬老バス所持者100円

【所在地】鹿児島市上福元町4319 ☎(66)0066

山口長男展

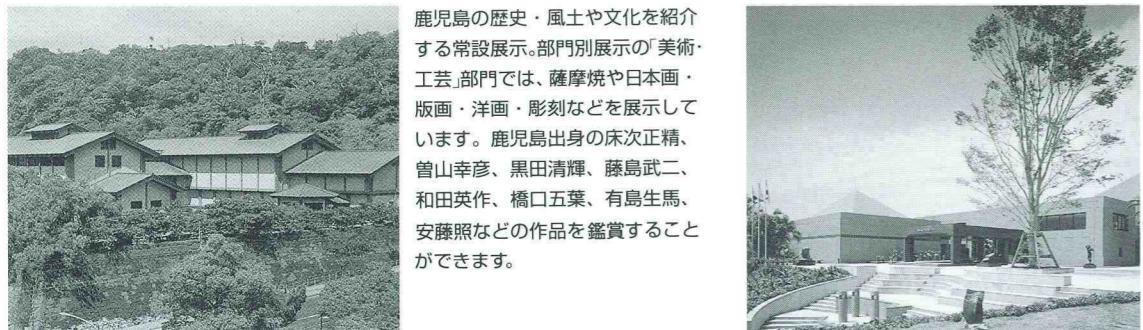
1993年10月1日(金)→10月31日(日)

観覧料=一般 ¥600(¥400)/高・大学生 ¥400(¥200)

小・中学生 ¥300(¥100)/親子券 ¥650

※()内は20名以上の団体料金

「薩摩」が見える 長島美術館



長島美術館

鹿児島出身画家、西洋の名画、古美術などを展示。郷土出身の作家を中心とした絵画を展示する第一展示室では、黒田清輝、藤島武二、和田英作、有島生馬、東郷青児、海老原喜之助などの作品、第五展示室では薩摩焼の白物、第六展示室では薩摩焼の黒物を中心に鑑賞できます。

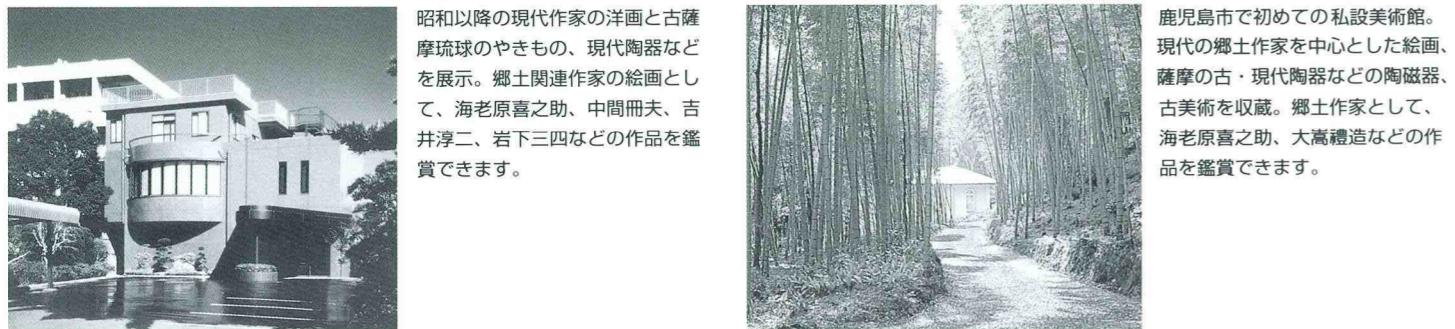
【開館時間】9時～17時(入館は16時30分まで) 年中無休

【休館日】月曜日(祝日のときは翌日)、12月28日～1月4日

【観覧料】小・中学生400円、高・大学生800円、一般1000円

【所在地】鹿児島市武三丁目42-18 ☎(50)5400

児玉美術館



児玉美術館

鹿児島市で初めての私設美術館。現代の郷土作家を中心とした絵画、薩摩の古・現代陶器などの陶磁器、古美術を収蔵。郷土作家として、海老原喜之助、大島禮造などの作品を鑑賞できます。

【開館時間】10時～16時

【休館日】月曜日(祝日のときは翌日)、12月1日～1月3日

【観覧料】小・中学生200円、一般(高校生以上)300円

【所在地】鹿児島市下福元町8251-1 ☎(62)0050



「黄色いかたち」1930年～1955年／宮崎県総合博物館
『わ』

鹿児島市立美術館
鹿児島市城山町4-36 ☎24-3400



鹿児島市立美術館・館長

四藏典夫

鹿児島は元来「武の国」と言われるが、一方、日本近代美術の父と呼ばれる黒田清輝をはじめ多数の優れた美術家を次々と輩出し、美術的伝統においても高い水準にあることを我々は誇りとしてよいと思う。以下「美」の国鹿児島の由來を考えてみよう。

美術館友の会会長川越政則氏は、その著書の中で鹿児島の風土を一言にして言えば「山河麗しく人貧しだ」と云う。火山が多く、大部分がシラス台地で占められ、土地がやせているので人の生活は貧しいが、美しい風景に富み、温泉も多い。

南国だから、年中サンサンたる太陽の光に恵まれ、山川・草木すべてが住む人の心に美的感覚を呼び起こさないわけはなかろうと思う。島津義弘は、その前の豊臣秀吉の関ヶ原の戦で天下に勇名を馳せた朝鮮出兵の時に多数の陶工を連れ帰つて薩摩焼のもとを開き、薩摩の工芸文化の発展に大きな貢献を

していると、北側が閉鎖的である一方で南の方に向かって開けているのに気付く。南西諸島、つまり三島・十島・奄美群島から琉球列島と続き、これを「道の島」と呼ぶ。道はつながっていないが、島伝いに黒潮に乗つて、いくらでも交通ができる。道の島を通じて南に開けているということは、南からの文化的な取り入れ口だということである。

坊津は古来、遣唐使の道であり、鎌真の上陸地であった。種子島には日本で初めて鉄砲が伝わった。鉄砲を「種子ヶ島」と言うゆえんである。ザビエルによつてキリスト教が伝來したのも鹿児島が初めてであった。また、幕末に調所広郷が藩財政を建て直し、その上に五十

万両以上の備蓄をやり、それを使つて明治維新の大回天事業が実現したのであるが、そのためには南方との密貿易が欠かせなかった。文化的な取り入れ口であるとともに、金の取り入れ口でもあつたのである。

鹿児島は古来、島津氏の統治が長く続いて、他藩のように入れ代わりが全くなかつた。正式に島津氏が大守になつたのは関ヶ原以後であるが、実際は鎌倉時代から南九州に根を張り、政治的安定が人心の安定につながつた。そのうえ「島津に暗君なし」と言われ、代々の殿様には優れた人材が多かつた。

関ヶ原の戦で天下に勇名を馳せた島津義弘は、その前の豊臣秀吉の朝鮮出兵の時に多数の陶工を連れ帰つて薩摩焼のもとを開き、薩摩の工芸文化の発展に大きな貢献を

なした。今第十四代沈寿官氏は、ずっと下つて、島津重豪は蘭癖の殿様と言われたくらい、オランダや海外の先進文化のことが好きで、この人が大分お金を使ったので借金が増え、調査の財政改革につながるのだが、次に齊宣、齊興を経て名君齊彬に至り、薩摩藩天下の雄藩として明治維新の中核的勢力にのし上がるうことになる。

齊彬は、その治政七年間に集成館を中心とする一大殖産興業活動を展開し、文武の気風大いに挙つた。なかでも、薩摩切子は日本最高の芸術的ガラス工芸として世界的に有名である。

齐彬は、その治政七年間に集成館を中心とする一大殖産興業活動を展開し、文武の気風大いに挙つた。なかでも、薩摩切子は日本最高の芸術的ガラス工芸として世界的に有名である。

鹿児島は「美の国」

このとき渡来した陶工の末といして名高い。

それだけではない。重豪や齐彬は知識欲が旺盛で、世界の動向に明るく、従つて、わが薩摩もこの頃が出来上がる。

明治維新以後この傾向が強い。

10

クローズアップ

中村 隆司さん

ワークプラザ麦の芽施設長



今年四月、麦の芽福祉会に明るい陽が差し込んだ。十二年にわたる活動が実を結び、「心身に障害をもつた人たちが自宅から通いながら仕事をする」身体障害者通所授産施設「ワークプラザ麦の芽」が完成。「人間らしく、ありのままに生きて行けたら」と願う心身障害者（仲間）とともに、中村隆司施設長は日々を過ごしている。

平成五年四月、穏やかな日差しの中で、ワークプラザ麦の芽の辞令交付があった。辞令を受け、「命」を育てることを命ぜられた仲間たちは喜びを体いっぱいで表現した。辞令を手渡す中村さんの顔にも仲間たちと同じ喜びが浮かんでいた。「人間としての権利を主張しただけのこと」。この主張が聞き入れられるまでに十二年を費やしている。「既成の環境が無いなら、自分たちで作ればいい」と、麦の芽作業所を発足させたのが昭和五十七年だった。発足当時は六人の仲間と中村さんの七人だったが、年々、協力を発足させたのが昭和五十七年だった。発足当時は六人の仲間と中村さんの七人だったが、年々、協力も増え、活動も活発化した。途中、地域の中でも、「赤ちゃんからお年寄りまで誰もが安心して暮らせる、あつたかい福祉の街づくり」をテーマに、麦の芽福祉会とあすなろ福祉会が一緒になり、共同事業として社会福祉法人化の取り組みを進めた。法人の認可を受けたのは平成四年七月。まもなく、念願の心身障害児通園事業「鹿児島子ども療育センター」の認可も近づいている。

「人間らしく、ありのままに」と、同じ目的を持つ仲間と一緒に活動してきた」と中村さんは語る。中村さ

さんにとって、障害者は保護すべきものではなく、あくまでも仲間である。施設でも、それぞれの仕事をよりスマーズに遂行させるために互いが存在しているように感じる。

福祉について考える人は多い。しかし、急速な高齢化社会の中で重きは「老人福祉」に置かれている。「どちらが先というわけにはないが、基本的には生活障害ですかね。だから老人問題がある。しかし、若い時から生活障害を持っているのが障害児者なのです」と中村さんは話し、障害児者問題の立ち遅れを指摘する。

自分たちで生活の保障について考えても限度がある。地域の協力、行政の広い知識が絶対に必要である。これまでも障害者自身、自らを取り巻く制度について知らないことが多かった。逆に、行政も知らない障害者らの現状も多い。中村さんは、「基本は互いに学び、一緒に論議すること」と話す。

四月開所時からこれまでを振り返り、中村さんは彼らの強い生きる力を感じている。「おおげさかも知れないが、彼らは革命家です。できないと思っていたことをやつてのけています。彼ら自身が自分

自身を主張し始めています」と、熱っぽく語る。

働く場を獲得した仲間たちは、それと同時に生きることも保障されたようだ。仲間たちがより長く人間らしい生活を送ることができるように、行政・地域・仲間たちが手を取り合うことを今、中村さんは望んでいる。

文／田中かおり

鹿児島新報社記者

【プロフィール】

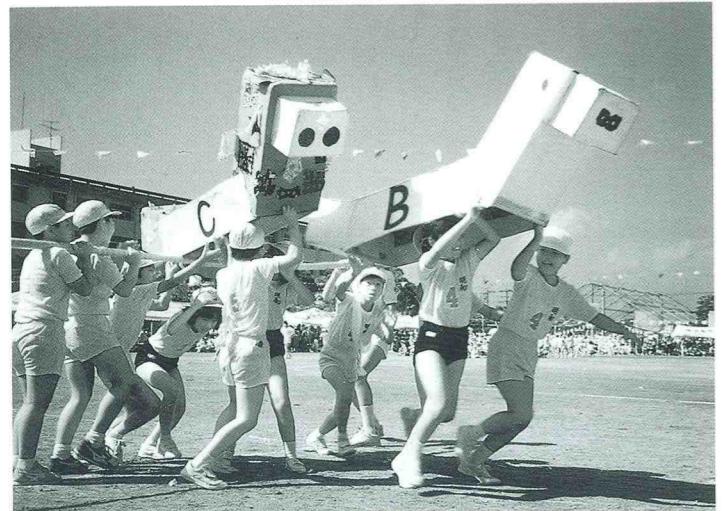
薩摩郡里村出身。日本福祉大学

在学中に、自分の目標と障害者の願いが一致する福祉のスタイルを探し各地で実習。共同作業所開設の芽生えがあると聞いて帰鹿した。昭和五十七年から麦の芽福祉会の運営委員長として、麦の芽共同作業所で幅広い実践活動や運動を開催し、障害児者への理解と共感の輪を広げてきた。

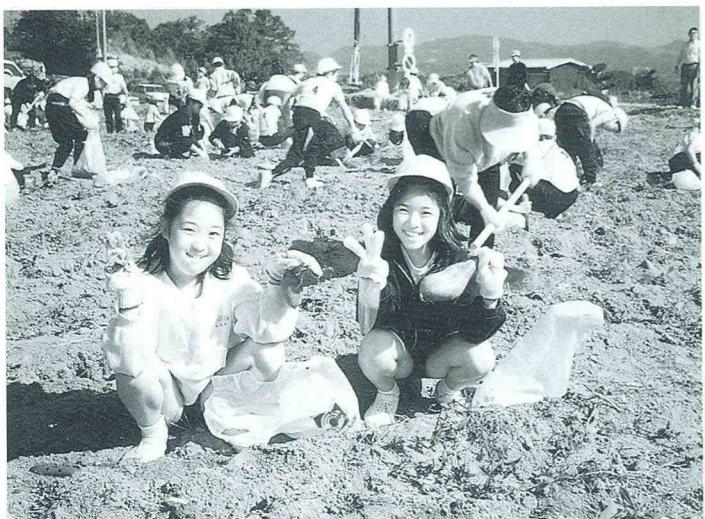
今年四月、社会福祉法人麦の芽福祉会「ワークプラザ麦の芽」のオーナーとともに施設長に就任。小野四丁目に妻、長女との三人暮らし。三十七歳。

※仲間は、多くの市民と福祉について学び、共に育つという趣旨の「交流会」(担当は、福祉文化班の田中美鶴代さん)にも取り組み始め、問い合わせを待っているという。

13



■みんなで力を合わせた小運動会



■自分たちで育てたお芋の収穫。でっかいぞ～(学習農園にて)



■明和小の児童の心のように、まっすぐ伸びた手・手・手…

明和小学校では、校庭が広いこともあって、スポーツ少年団活動も活発で、数多くの優秀な成績をおさめています。今年は、全国大会や九州大会にも代表で出場しました。

明和小学校は、今年二十周年を迎えます。これを節目に二十一世紀に向けて大きくはばたきます。これまで以上に明るく、和やかな学校を築いていきたいと思います。

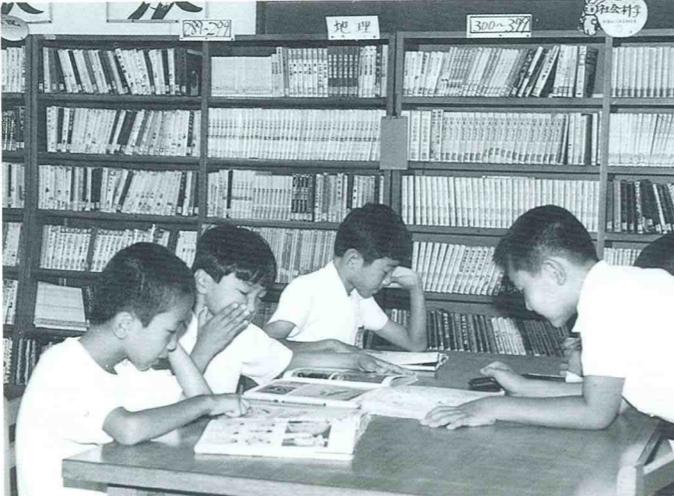
明和小学校では、校庭が広いこともあります。これを節目に二十一世紀に向けて大きくはばたきます。九百六十七人の力を一つにして、これまで以上に明るく、和やかな学校を築いていきたいと思います。



■「せんせい」「せんせい」と明るい声が響きます。(1年生の生活科)



■不思議なことに、好きな子の方に ボールが飛ぶんです。



■ぼくたち自慢の図書室です。

学 校 探 訪

明和小学校

●創立…昭和49年4月 ●児童数…967人(平成5年9月1日現在)



■桜島が、いつも元気な子供たちの姿を見守っています。

人一人が、あいさつや朝の体力づくりなど、がんばっています。二年生と五年生は、武岡台養護学校との交流学習を通して、違う学校の友達とも心を通わせています。私たちも、本が大好きです。本を読むと、やさしい気持ちになります。ときには、はげまされたり、ときには、はげまされたりします。図書室は昼休みや放課後、夏休み、冬休みも利用できるしくみで、今年の夏休みに一番多くの本を読んだ学年は一年生でした。一人平均五冊になりました。わたしたちの図書室には一万五千冊もものいろいろな種類の本があります。これからも、たくさん本を読みたいと思います。

わたしたちの学校は、「明るく、強く、よく考え、助け合う」という目標をもっています。そして、児童一がとてもきれいです。

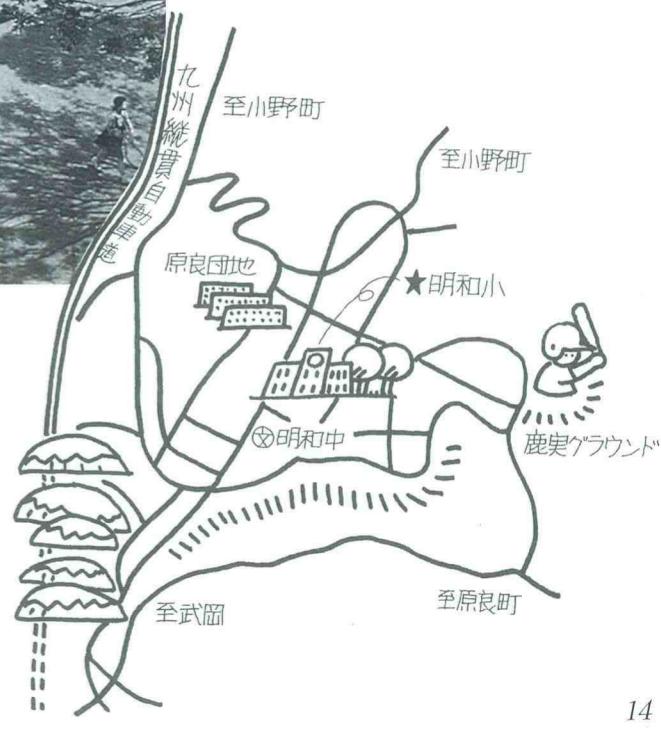
明和小学校は、昭和四十九年四月に開校しました。今年、創立二十周年を迎えるまでに、およそ四千七百人の卒業生を送ってきました。

わたしたちの学校は、「明るく、強く、よく考え、助け合う」という目標をもっています。そして、児童一がとてもきれいです。

明和小学校は、昭和四十九年四月に開校しました。今年、創立二十周年を迎えるまでに、およそ四千七百人の卒業生を送ってきました。

大きくはばたく 明和小学校

六年 松田 史代





7月25日／錦江湾で横断遠泳大会

真夏の空が広がる錦江湾で第7回桜島・錦江湾横断遠泳大会が開催されました。133チーム、532人が参加し、桜島をバックに錦江湾の波間に力を泳ぎました。



7月25日／鹿児島市の夏の風物詩「祇園祭」

今年も恒例の祇園祭が開催されました。威勢のいい神輿(みこし)をはじめ、華やかな御所車や稚児かごが祭りを盛り上げ、「セーヤ、セーヤ」の掛け声が街にこだましていました。



6月30日／伊敷台小学校で開校記念式典

市内で60番目の小学校として4月に開校した伊敷台小学校の開校記念式典が行われました。学校の歴史は自分たちがつくっていくのだという子どもたちの意志が強く伝わってきました。



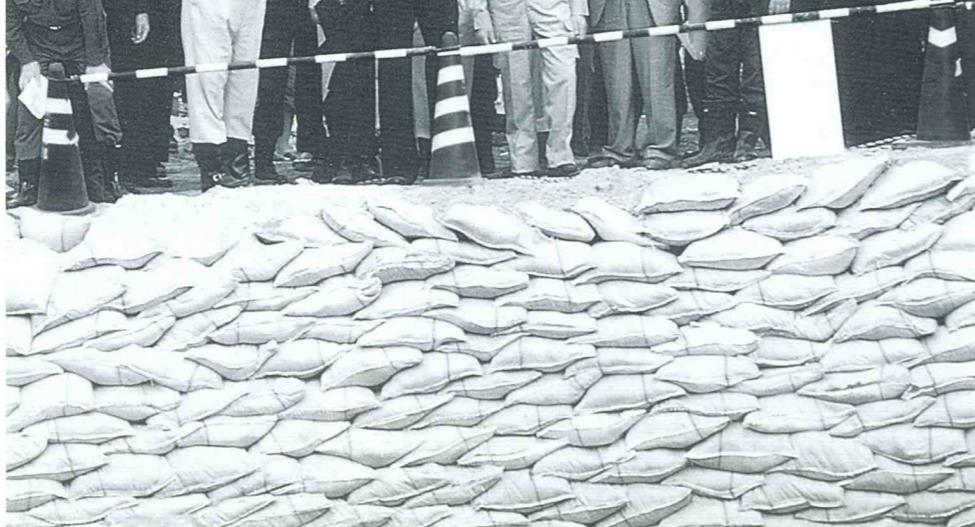
6月6日／不用品を再利用!リサイクル市場開催

甲突川左岸市民広場でリサイクル市場が開かれ、梅雨の晴れ間に約2万人の人出でにぎわいました。用意されたリサイクル用品は次々と引き取られていきました。新しい持ち主のもとで大いに活躍することでしょう。



8月15日／第二次世界大戦戦亡者慰靈祭

終戦記念日の8月15日に城山公園内の探勝園で慰靈祭が行われました。遺族や関係者、児童代表者など約200人が参列し、戦争で亡くなった方々のめい福を祈るとともに、世界平和の尊さを改めてかみしめました。



8月13日／細川首相が8・6豪雨等災害被災地を視察

細川首相が8・6豪雨災害と台風7号による被害状況の視察のために来鹿しました。稲荷川周辺の災害現場と避難所を視察されました。



7月10日／磯海水浴場で海開き

夏の太陽が照りつける中、今年も磯海水浴場が海開きました。一年ぶりの海水浴に子どもたちは大はしゃぎ。その歓声が真夏の空へ吸い込まれていきました。



7月16日～24日／'93鹿児島カップ火山めぐりヨットレース開催

今年で6回目を迎えた火山めぐりヨットレースが錦江湾・硫黄島などのトカラ列島を開催されました。色とりどりのセールに風を受け、各レースで熱戦が展開されました。



話す言葉は違っても心は友達!

夏休みも残りわずかとなつた八月二十八日・二十九日の両日、国際交流キャンプが緑豊かな少年自然の家で行われた。

鹿児島市国際交流市民の会が鹿児島市近辺に在住の外国人講師や留学生などに呼びかけ、市内の小・中学生とのキャンプを通じて草の根の交流を深めようと始めたもので、今年が一回目。総勢百二十人の参加があり、参加国も十四カ国と国際色豊かなキャンプとなつた。

今回、参加した子供たちのはとんどが外国人の人との交流は初めて。なかなか打ち解けない様子だったが、グループ対抗ゲームやごはんを作つたりするうちに冗談を言い合える程になつた。

参加者の一人、内島大地君(宇宿小六年)は「とても楽しい。初めは恥ずかしくて話せなかつたけど、優しい人ばかりで、もう友達になつた人もいる」とニコニコ顔。

一方、スペインからの留学生フリオ・ロペスさんは「たくさんの子供たちに出会えてうれしい」と、みんなで作つたカレーをおいしそうに食べていた。

元気な笑い声の中に、片言の日本語と片言の外国語が飛び交う。お互いに言葉の垣根など気にもとめていない。なかにはお互いの住所を教え合い、意外と近所に住んでいたことに驚く光景もみられ、国際交流の芽は、しっかりと着実に参加者の心に根づいていた。

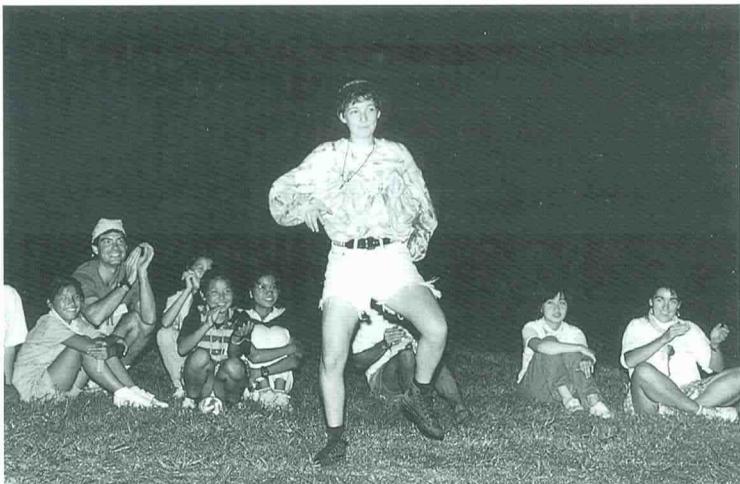
ハロー鹿児島

HELLO—KAGOSHIMA

国際交流キャンプ (少年自然の家)



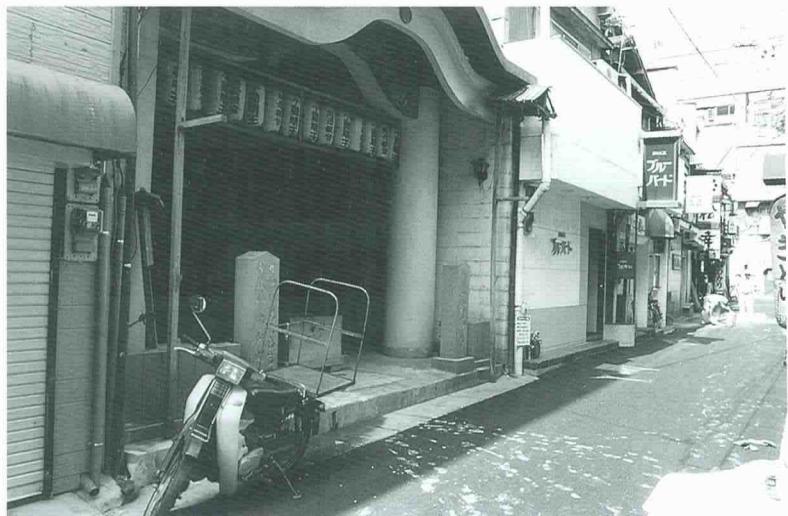
本場仕込みのカレーはいかが?!



自慢の踊りも飛び出したキャンプファイヤー!

CITY ANGLE

街の盲点

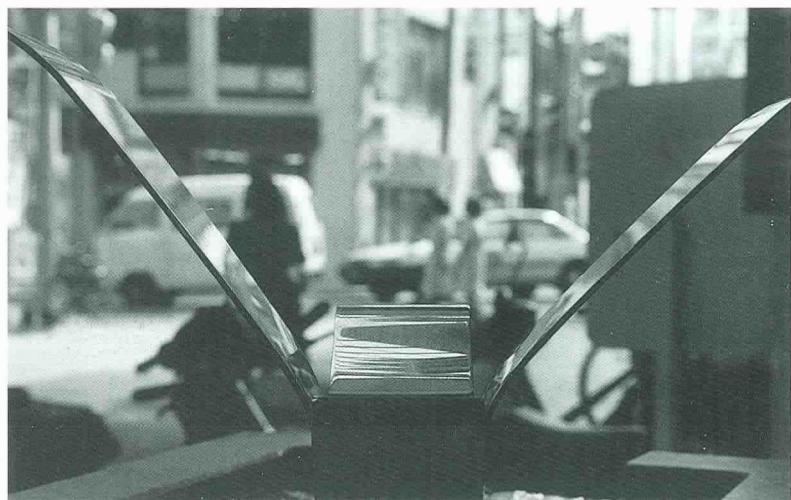


■喧噪の中から願いが集まる

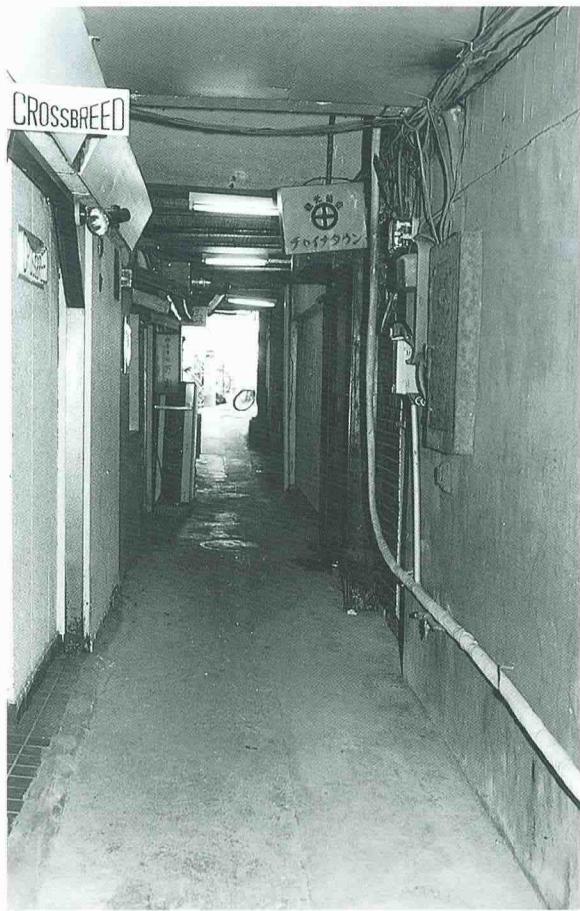
街は人々の活気と喧噪をエネルギーに生きている。しかし、街は動なる部分だけでは生きていけない。



■街の人魚は黙して語らない



■メタルの羽根の谷間から



■ノスタルジア

遊び心で ゆとりある人生を！

作家

五代 夏夫さん

夏は大好きな季節です。
ぎらぎらした光が、夏の青空から強烈に降り注ぐ。

何もかもが、すべてあらわになる。むきだしになるんですね。ほら、ここから見える桜島の山ひだ。深い緑と影のコントラストが実に美しいですね。強烈に目に飛び込んできます。

その色も一日で何色も変化する。南国のかぎるような情熱と生きエネルギーを感じますね。

執筆に疲れたら、よくこのあたりを散歩します。坂道が多くて、上りは大変だけれども、眺望の素晴らしさはここだけのものですね。私は日本一の散歩道だと思っています。

上之原配水池の桜が咲き誇る春。ヤシの木陰と蝉時雨が午後を演出する夏。

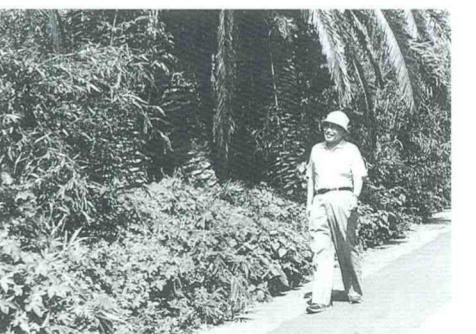
四季の移り変わりが楽しめ、季節の息吹を体感できるんです。特に新緑のころのクスの木には心を魅了されます。セザンヌの洋画の世界をほうふつさせる明るさと清涼感が心地よいですね。

古本屋を訪ねたりする、この作家がまた楽しいんですよ。執筆中は、その人物になりきってしまいますね。時を超えて、歴史という舞台で、もう一人の自分が生き生きと輝き出す。作家みよによりに尽きる喜びです。

県議会事務局勤務時代は、ちょうど財政的にも困難なときで、現在の石原内閣官房副長官が財政課長のときでした。



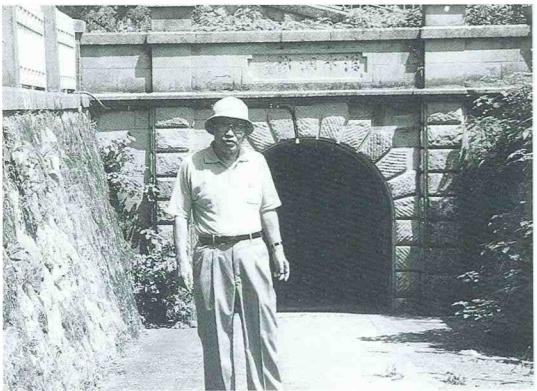
「この散歩道は日本一ですよ！」
その眺望の素晴らしさに、思わず深呼吸。



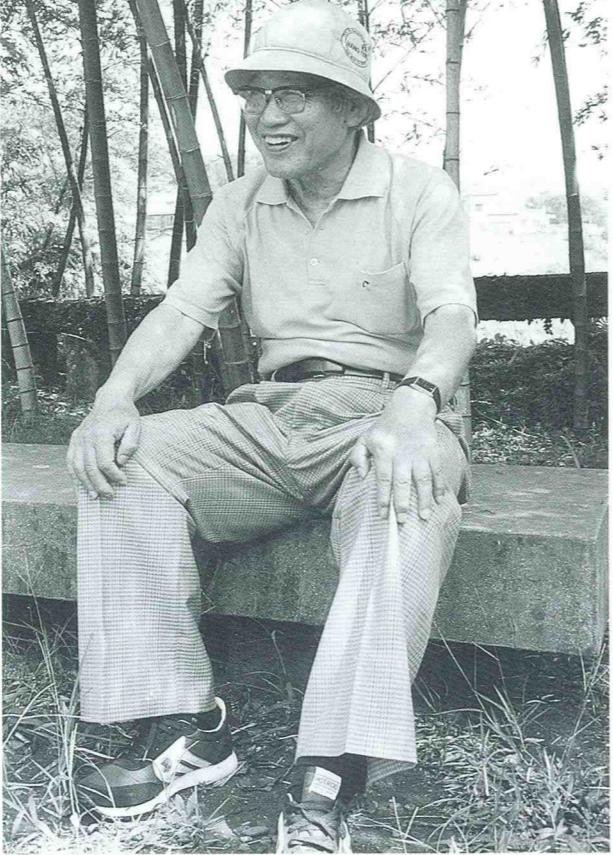
自らの文学の出発点だという奄美・沖縄。
風に揺れるヤシの葉がその雰囲気を醸しだす。



薩摩のこころの原点、南洲墓地。
気骨ある青年たちの魂の鼓動を感じるという。



「清水潤街」と彫られた上之原配水池内のトンネル。
戦時中、この中で市が陣を張っていたという。



竹林でちょっと休憩。歴史を通して、様々な人間模様を描いてきた作家としての優しい目がそこにあった。



「味わいがあつて、いいねえ……」。
迷路のような路地裏には人をなごませる
何かがあるといふ。～名山町にて



本格的に作家を志したのは、昭和三十九年に「文学界」新人賞を受賞してからです。

歴史上の人物の生きざまや事件に、非常に興味をそそられます。執筆する前に、できるだけ多くのデータを集めます。

今まで行政的な文章に慣れていた私でしたが、政治的な文章表現の難しさを随分と勉強させられました。

硬い表現ではなく、柔軟性と彈力性、いわゆる生きた文章が求められるんです。

ホテルにかんづめになって、答弁用の資料を書いたり、地方議会のあり方というテーマで論文を書いたら、自治省から表彰されたことあります。

これまで行政的な文章に慣れていた私でしたが、政治的な文章表現の難しさを随分と勉強させられました。

硬い表現ではなく、柔軟性と彈力性、いわゆる生きた文章が求められるんです。

ホテルにかんづめになって、答弁用の資料を書いたり、地方議会のあり方というテーマで論文を書いたら、自治省から表彰されたことあります。

今まで行政的な文章に慣れていた私でしたが、政治的な文章表現の難しさを随分と勉強させられました。

硬い表現ではなく、柔軟性と彈力性、いわゆる生きた文章が求められるんです。

ホテルにかんづめになって、答弁用の資料を書いたり、地方議会のあり方というテーマで論文を書いたら、自治省から表彰されたことあります。



●取材メモ

取材日には久しぶりに青空が顔をみせた。

坂道の多い散歩道を山坂達者の先生が軽快に先を行く。饒舌で、

ウイットに富んだ会話は聞く者を飽きさせない。その温顔には、少年のような瞳がキラキラと輝いていた。

昭和三十九年「那覇の木馬」で「学界新人賞受賞。同作品で芥川賞候補。鹿児島県芸術文化振興会議委員。昭和五十七年、南日本文

化賞(文化部門)受賞。著書に「西郷隆盛のすべて」、「薩摩問わず語り」上下など。

現在、眺望抜群の下龍尾町の高台に居を構える。宮崎県日向市生



夢は宇宙へ

錦江湾公園に電波望遠鏡が設置され、星の誕生や宇宙構造の解明などに一役果していくことが期待される。子供たちにも魅力的な空間である宇宙。番組では子供に人気の市立科学館の宇宙コーナーから、電波天文学の専門家とアマチュア天文家をゲストに迎え、宇宙の魅力や子供たちへの期待などについて楽しく語り合います。

「市立科学館は子供に大人気 体験し、次へステップ」

上野 今日は鹿児島市立科学館に来ています。この科学館は宇宙のことと含めて科学のことを大人から子供まで楽しく学んだり、感じたりすることができますね。

市長 開館して三年近くになります。

上野 毎年たくさん的人が利用しているだけではなく、次へのステップができますね。特に、鹿児島は二つのロケット基地や活火山・桜島があつて、そ



市立科学館の宇宙コーナー

頑張ったんですが、十年たつとも

何も形として残らないものですか
すい星と小惑星の写真観測に
切り替えたんです。写真観測でし
たら、小惑星などの軌道の決定に

役に立つのですから。

上野 そうですか。若い頃の夢をそのまま続けて、それが実現され
ていっているというのは素晴らしいですね。こういう科学に関する

上野 ういう宇宙、天体あるいは火山とい
うものに科学館の特徴をもたせ
ていますので、宇宙劇場や宇宙コ
ーナーなど、非常に充実している
と思います。

上野 わって楽しめることが子
供たちに人気のようですね。

市長 見るだけではなく、自ら体

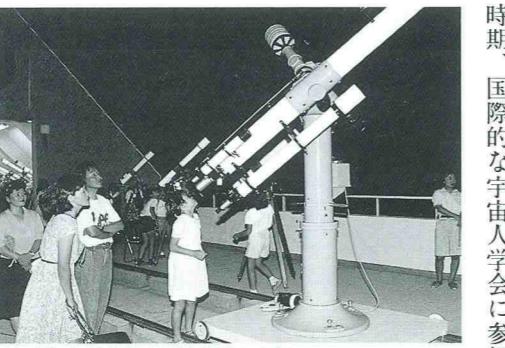
事にしたいですね。

市長 そうですね。やはり、疑問を持つ、あこがれを持つ、そういうところから生まれてくるんでしょうね。この前、宇宙旅行をされた毛利さんも『子供のころの夢が実現した』と、そのことを一番喜んでおられましたね。

森本 科学者になるだけでなく、行政にも理科系の人をもっと採用し、考え方を生かしてほしいと思
います。(笑)

上野 森本先生は、小さい頃から天文には興味があったのですが、星の好きな子って、たくさんいますね。それが全部天文学者になつたら大変ですよ。私の場合は、なんなくですね。人類学者になつたら、それなりに面白い人生をやつていたのではないかと思います。

——宇宙人はいますか?



市立少年自然の家の天体観察も人気
(写真は吉野東小学校の児童と父母)

自然というのはね。いますよ。
向井 宇宙人がいたとした場合に
は、向こうの文明が数十万年とか
数億年進歩しているらしいとい
うことですので、もし遭遇しても、
お互いに意思の疎通ができるのか
なと思つたりしますね。

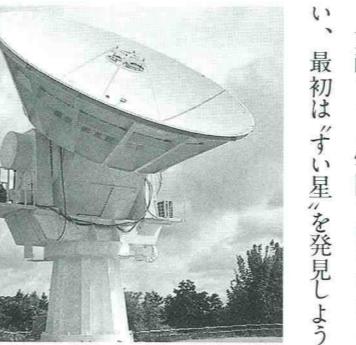
上野 電波望遠鏡と宇宙人という
のは関係がありますか。

森本 直接は関係ないです。一
時期、国際的な宇宙人学会に参加
していましたことはありますけどね。

上野 日本列島望遠鏡

——日本列島望遠鏡

錦江湾公園に設置された鹿児島大学の電波望遠鏡は、長野県の国立野辺山宇宙電波観測所から移設されたもので、直徑が六メートル。森本先生が中心になつて、日本で初めて作られたものです。宇宙から発せられるごく弱い電波を観測し、星の誕生や宇宙の構造の解明などをしていくものです。宇宙望遠鏡の隣の観測室で森本先生は学生さんたちと一緒に観測や分析作業を行っています。



錦江湾公園に設置された電波望遠鏡

宇宙に子供のころの
夢を追い続けて

上野 向井さんは「小惑星」を発見
じやないでしょうか。

森本 体験することで、分かるつ
てことだけでなく、次へのステッ
プができるんですね。

上野 森本先生は、科学館をご覧
になつて、特に楽しいなと思うところはありますか。

森本 最近は、どこも、それぞれ
に特徴を出していますね。ここは
ここなりの宇宙という方面に特色
を持っていますし、「水と風」のコ
ーナーなども楽しいですよね。子
供たちも樂しそうにやつてるし。

上野 向井さんはいかがですか。
市長 三回利用していますが、
本当にいい施設だと思っています。
できたら、立派な天文台もほしい
と思います。(笑)

天文学というのはアマチュアでも貢献できる学問ではないかと思
い、最初は「ずい星」を発見しようと
試験をしていくことで、何か新たな
發見というものが生まれてくるん
じゃないでしょうか。

上野 向井さんは「小惑星」を発見
されて、とてもすごいことだと思
うんですけど、本格的に開始したのは
二十歳のころからです。

向井 小学生のころからだつたん
に特徴を出していますね。ここは
ここなりの宇宙という方面に特色
を持っていますし、「水と風」のコ
ーナーなども楽しいですね。子
供たちも樂しそうにやつてるし。

上野 向井さんはいかがですか。
市長 三回利用していますが、
本当にいい施設だと思っています。
できたら、立派な天文台もほしい
と思います。(笑)

【出演者】敬称略
森本 雅樹(鹿児島大学教授/電波天文学)
向井 優(アマチュア天文家)
赤崎 義則(鹿児島市長)
上野 知子(司会)

市民のひろば

「市民のひろば」はMBCから放送されます。放送日時は、毎月第3日曜日を除く日曜日の午前10時30分から15分間。ただし、第4日曜日は30分間。(この番組は平成5年7月25日に放送したものまとめたものです)



森本教授の楽しい話に科学館での収録は笑いの連続。(写真右から森本教授、向井さん、赤崎市長、上野アナウンサー)

上野 市長さん、子供たちに宇宙人いるの?って聞かれたら何と答えられますか。

森本 私はいると思うし、いてほしいなって思いますね。(笑)

市長 ここにひとつ(人類が)いるわけでしょう。大抵、ひとつあるば二つや三つはあるわですよ、

宇宙人についていろいろ考えてみ
ると、考え落としていたことに気
付きます。それで、こういうやり
方で搜せばいいだろう、宇宙人が

たくさんいれば銀河系の中で一つ
の社会をつくっているんじゃない
か。そういうことをもう少し理論的
に数字的に表せないかだと。

市長 森本先生ご自身も、わざわ
ざ鹿児島に来ていただいた。その
ことの方が非常に素晴らしいと思
いますね。これから鹿児島大学自
体が日本の中で特異な地位を築いて
いく。また、学生さんもそういう
人が育つていく。本当にありがた

で、やつたー！と思いまし

たね。

上野 小惑星の観測は、ど

んな理由で続いているので

ですか。

向井 小惑星は非常にたく

さんあり、専門家だけでは

全部のチェックはできません。

また、観測データを報告す

れば全世界の天文台に発表

され、永久に保存されます。

そういう部分に魅力を感じ

ています。

森本 小惑星については、

まだまだ分からぬことが

たくさんあるんですね。もともと

一つの惑星だったのか、それとも

たくさんの小さなものだったのか。

一つのものだったら、どうして壊

れたのかだと。いろんなことがこ

れからだんだん分かってきます。

そのためには、少しでもたくさん

の小惑星が見つかることが大事な

ことです。それにしても我慢のいる

精密な仕事なんです。

宇宙は

スリルがあり神秘的

上野 よく人に「ロマンチックです

すごくハードな観測なんですね。冬

の寒さとか、体のきつさとか、我

慢しながら一生懸命観測している

んですけど。

上野 ご家族の皆さんのが協力も

あるかと思うんですけど、そうや

つて宇宙にのめりこんでいく。そ

の魅力は、どんなところですか。

向井 広い宇宙の狭い部分を顕微

鏡でみているようなものですが、

その狭い部分でも、今、宇宙を見

ているのは世界中で自分だけだと

いう気持ちからだと思うんですけ

ど。宇宙は、いつ見てもスリルが

あるし、神秘的だし、広いなあと

感じますね。

市長 向井さんは一人でやってお

られるけど、世界の中の鹿児島の

向井天文台と、そういう位置づけ

をしていいような素晴らしい働き

だと思いますね。

上野 森本先生は宇宙のことを考

えるときには、やはり、ロマンチッ

クなイメージネーションなんかが浮か

んだりするんですね。

森本 だんだん、物事が分かつて

くるときのジワジワとした気分の

ときやH₂O(水)が宇宙にもあつて

それがオリオン星雲の中では、え

らく強い電波を出しているぞ！と

かいうときですね。

市長 ご苦労も多いでしょうが、

しかし、その次にくるロマンとい

うのは、これはこたえられない素

しいものが発見されていく、

親子で天体を観測する。空を眺

める。そういうことができる向井

さんの活動には温かさがあります

ね。そういうものの中からロマンも

伸びていくんだと思いますね。

向井 いつも未知のものに向かっ

て挑戦しているんだ！という気持ち

ちは、今もありますね。

晴らしさだと思います。

上野 森本先生は若い方に、どん

なことを期待されますか。

森本 私を手伝ってくれる学生は

骨惜しみしないし、いくらでもや

ってくれる。単位なんか出ないん

ですけどね。本当に素晴らしいで

すね。その分、我々も頑張って、

大学を面白くしていくということ

をやって、全国から学生が来

るようにしたいと思っています。

また、錦江湾公園に普通の

光の望遠鏡も置こうと思って

いるんですよ。ですから、皆

さんにも来ていただきたいと

思いますね。

電波望遠鏡は鹿児島の

新たな宇宙情報基地

市長 学生さんが一生懸命よ

くやつてくれる、加勢してくれ

れる。それは、やはり、次々

に自分たちの仕事を通じて新

創造していく、そういうところ

に学生さんたちの楽しみがあるん

だと思いますね。そういう意味で

は、お二人の仕事や活動は、うら

やましいですね。

今回、電波望遠鏡が鹿児島に設

置されたことで、新たな宇宙の情

報基地になっていくということを

思うと、本当に楽しいですね。

上野 スペースシャトルなどによる

有人飛行など、これから、ますま

す宇宙が身近に感じられるようにな

なっています。どうぞ、

皆さんも子供のときの夢を、いつ

までもキラキラ輝かせておいてい

ただきたいと思います。今日は皆

さん、ありがとうございました。

上野 皆さんも身近に感じられるよう

な宇宙が身近に感じられるようにな

なっています。どうぞ、

皆さんも子供のときの夢を、いつ

までもキラキラ輝かせておいてい

ただきたいと思います。今日は皆

さん、ありがとうございました。

上野 向井さん、小惑星を発見し

たときの気持ちとは、どうですか。

向井 小さい頃からの夢でしたの

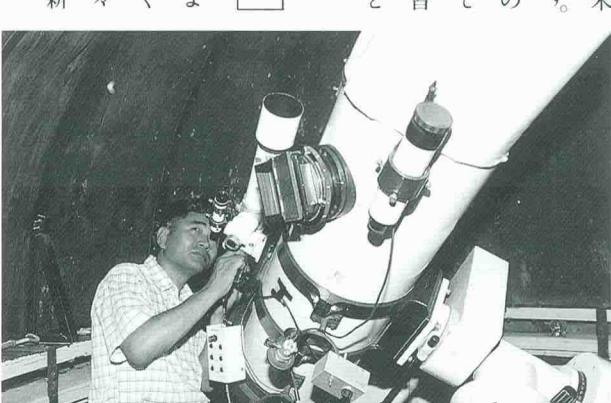
認されています。

上野 向井さん、小惑星を発見し

たときの気持ちとは、どうですか。

向井 小さい頃からの夢でしたの

自分の発見した小惑星に「鹿児島」と「春男・向井」(亡き弟さんの名前)と命名した向井さん。観測は深夜に及ぶ。

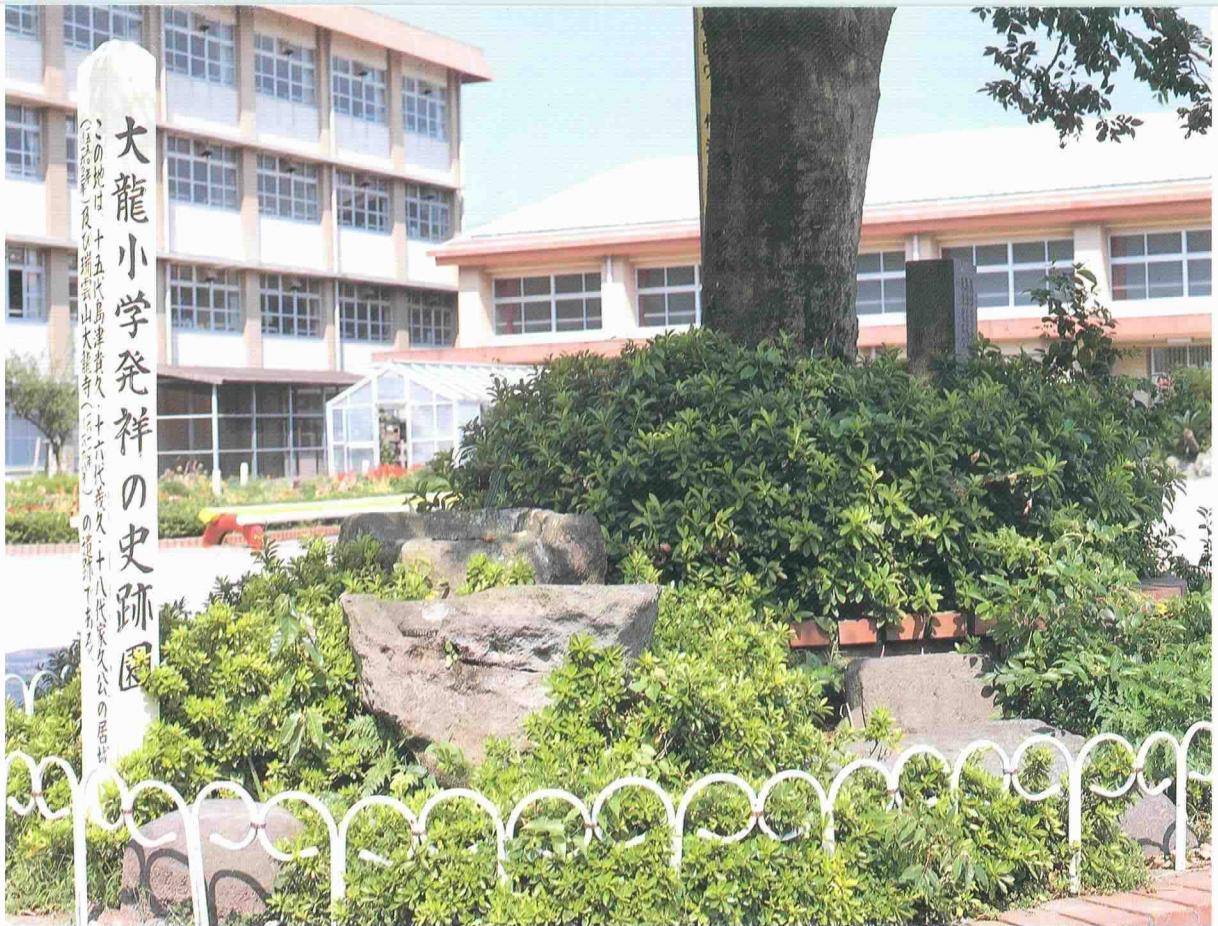


ふるやことの史跡

内城内に建てられた

瑞雲山大龍寺

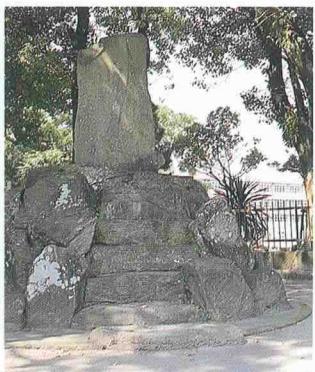
県文化財保護指導委員 西元肇



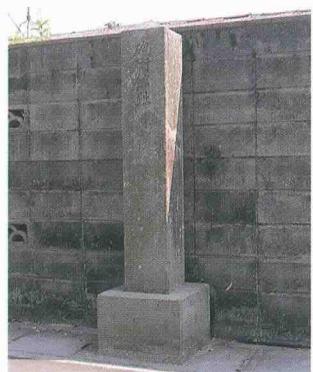
二代目の樅と手洗鉢・庭石



大龍小学校正面付近



文之和尚の碑



砲術館跡の碑



25

柳町を通り大龍小学校前バス停で下車する。低い石垣で囲まれた大龍小学校は縦横とも約百二十二メートルの広さである。ここが戦国時代、島津貴久が内城（御内）を築き、三州（薩摩・大隅・日向）の統一をなし遂げたところである。

長男の義久は、さらに九州一円の征服に乗り出したが、豊臣秀吉の征討を受けて屈した。二男の義弘は朝鮮出兵や関ヶ原の戦に参加

した。島津家久が内城から鶴丸城に移つたので、その跡に文之和尚が大龍寺を開いた。大龍の名前は、貴久の号「大中」と義久の号「龍伯」をとつたものである。

儒僧の文之和尚は、義久・義弘の三代に仕えた政治顧問で、黒衣の外交官ともいわれた。大龍寺は廢仏毀釈で廃寺となり、一八八四年（明治十七年）、大龍小学校が建てられた。大龍寺時代の遺跡としては正門に二代目の蓑縣松、その横に文之和尚の碑、玄関横に手洗鉢・庭石、二代目の樅がある。

大龍小学校校庭遺跡は、繩文時代後期を中心とした祭祀遺跡といわれる。また、正門の前に「砲術館跡」の碑が建っている。島津齊興・齊彬時代、砲術家成田正右衛門を統裁として、洋式銃砲を製造した跡である。

集えば楽し

世代を超えて……
心搖るがす故郷のリズム！

「広木蛇味線バンド」の皆さん

にぎやかな蛇皮線の音色や太鼓の響く音、威勢のいいおはやしが風に乗って聞こえます。

一体、どんな人たちが演奏しているのだろう？練習場の扉をそつと開けました。とたんに、軽快で、躍動感のあるリズムが、どつと押し寄せてきました。

「広木蛇味線バンド」は、小学生を中心に戸籍から二十七歳

の社会人まで、約三十人のメンバーで構成されています。

今年の三月、中央公民館で開いた初めてのコンサートでは、日ごろの練習の成果が功を奏し、大成功を収めました。

リーダーの久野三知男さんが昨年三月で四十年近い教員生活にピリオドを打ち、このバンドを結成したのが昨年の九月。

奄美大島の瀬戸内町出身の久野さんは、幼少のころから蛇皮線やほら貝などを遠く子守歌代わりに聞いていたといいます。教鞭をとるようになっても、蛇皮線の澄んだ音色は久野さんの心を魅了して離そうとはしません。赴任した小学校でも蛇皮線を取り入れたバンドを結成し、数々の大会で好成績をあげてきました。

「郷土の楽器のもつ素晴らしい音色。この独特的の音色を童謡や唱歌にアレンジしたやさしいメロディーから練習を始め、島うたの美しい旋律にたどりつくようにしたいと思いますね」。

心の琴線に触れる蛇皮線の音色に、時の経つのも忘れ、しばし聞き入ってしまいました。



水のファンタジー

水は私たちにとって大切なものです。

時には荒れ狂い、

また恵みを与えてくれるし、観ることもできる。

市内各所の噴水を情景として写してみました。

光と水が織りなすシーンは素晴らしい生きもの。

心の潤いと安らぎを感じ、いつまでも見つめたい。

いろいろな題材を撮り、一人悦にいっています。

写真は限りなく魅力的。

更に感性を磨き、良いものを求めて撮り重ねたい。

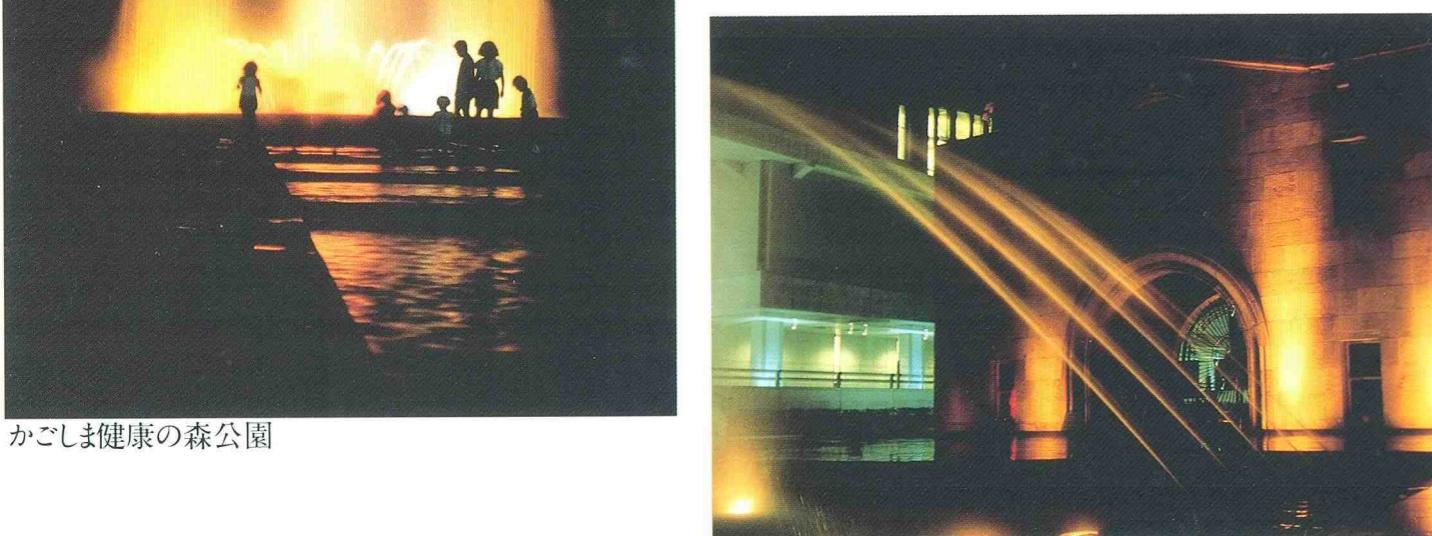
写真と文／林三郎さん



かごしま健康の森公園



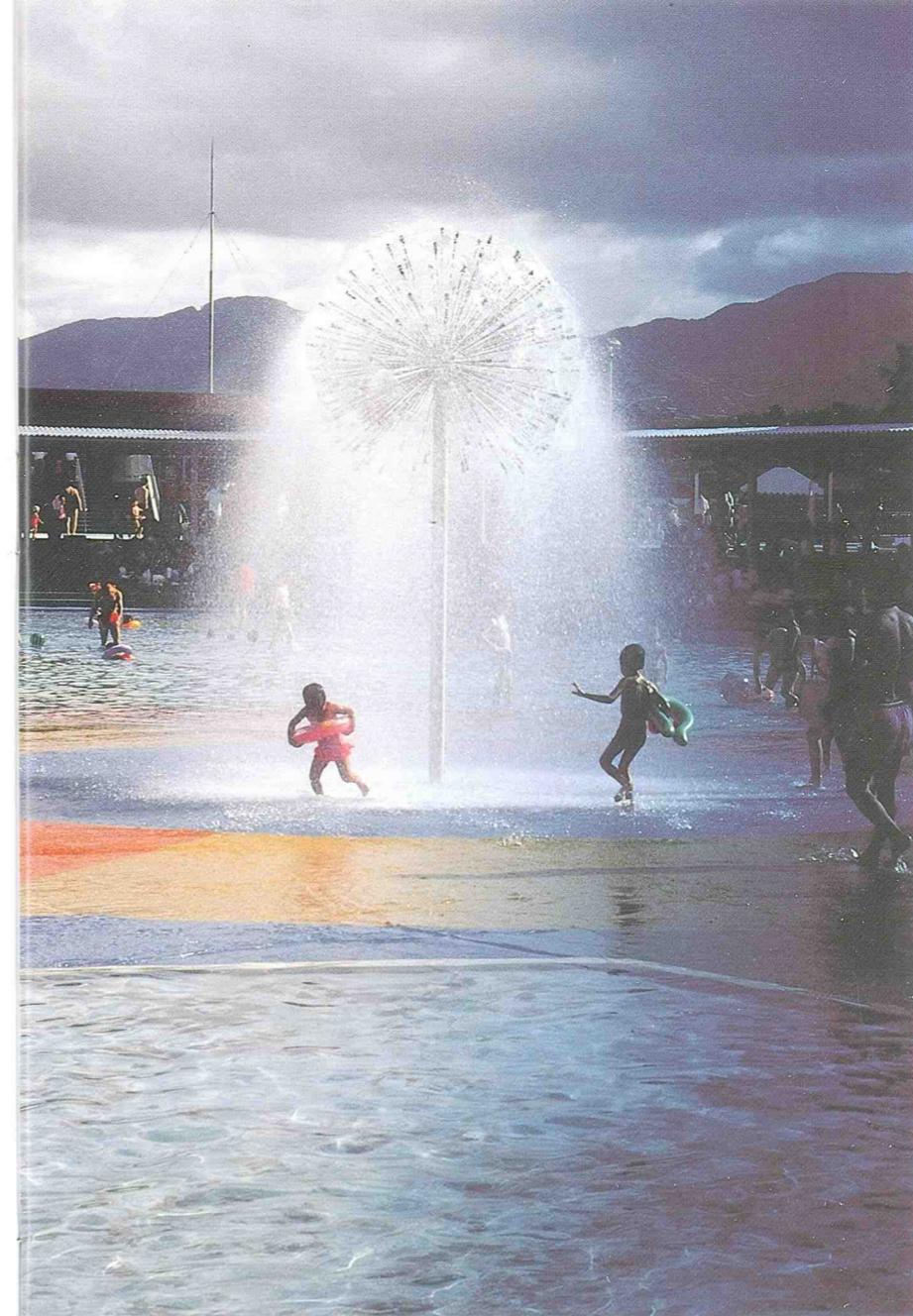
西鹿児島駅前広場



鹿児島アリーナ



みなと大通り公園



サンライフプール



中央公園

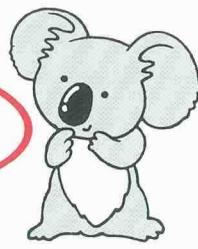


かごしま健康の森公園



動物公園の

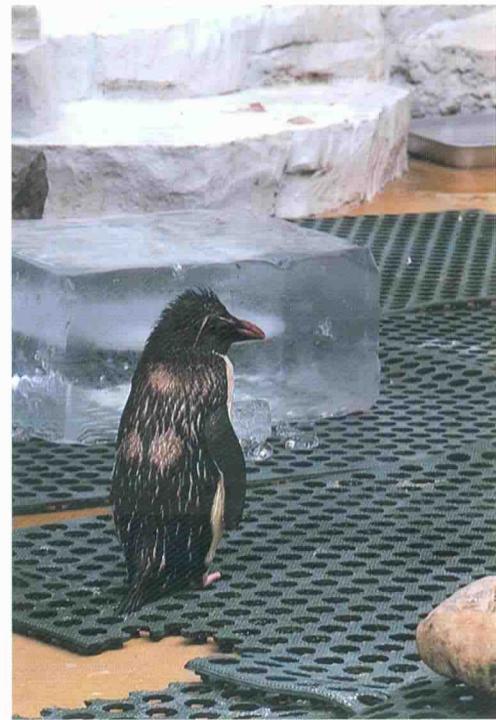
ゆかいな仲間たち



1日2回のこの時が楽しみ



フウ、オカの上の暑さはこたえるなあ!



ひんやり、いい風が吹いてきますよ

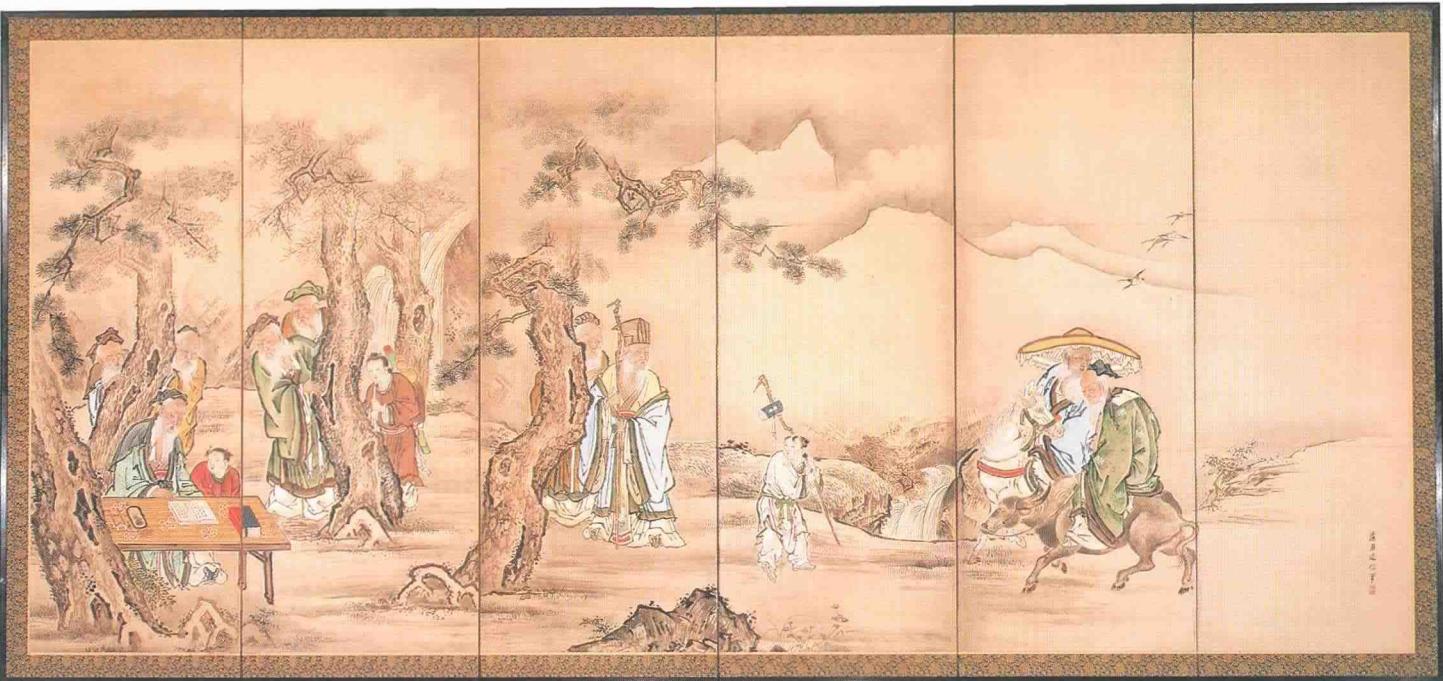
夏でも、ひんやり。

「異常」ずくめの今年の夏。本格的な暑さが来ないまま過ぎ去つて行きました。

暑さをしのぎやすい日が多くたたとはいっても、ホッキョクグマやペンギンにとって、思い出したよう

に降り注ぐ夏の日差しは、やはり身にこたえたようです。

プレゼントされた氷と戯れたり、側に寄つてひんやりした感触を堪能していました。



群老雅遊の図

サイズ(縦157.8cm・横353.7cm)

紙本墨画着色・屏風(六曲一隻)

かのう ほうがい

狩野芳崖(1828年～1888年)

〈作者〉文政11年、長府藩御用絵師狩野春臈の長男として現在の下関市に生まれる。父に絵を学んだ後、弘化3年に藩

費留学で江戸に上り、木挽町狩野家勝川院雅信に入門。数年後には同画塾の塾頭となるが、粉本(絵手本)主義による習画法にあきたらず雪舟や雪村の画法を学ぶ。そして、狩野派の法外に出るの意で芳崖と号す。万延元年、江戸城本丸再建に際して大広間天井画を担当。維新前後のころは苦しい生活の中で作画を続け、明治

12年には島津家のもので勤める。

現在も尚古集成館には「犬追物図」など芳崖の作品数点が残されている。明治17年、アーネスト・フェノロサに認められ、以後、没するまでの4年間フェノロサの理想とする新しい日本画の創造に挺身した。「悲母觀音」「不動明王」など多くの傑作がある。

△解説△ 六曲一隻屏風の大きな画面の中に、あわせて九人の老人達が群れ集う様が描かれている。遠くには雪山が配され、滝から流れ落ちる清流近くの松林は世俗から遠く離れた一種の理想郷を表している。

いずれも、白いひげをたくわえた老人達は清々しい自然の中で、自由な境地に興じる仙人のような存在と言えよう。そう言えば、画面右方の牛に乗る人物は古画に描かれた老子の姿に似ている。

また、中央の杖を持つ人物は寿老人に、左方の机上の書物を見る人物は莊子に擬すことができる。
「藤原延信筆」の落款と「雅道」の印章がある本作品は芳崖二十歳代半ばごろの若描きによるものと考えられる。狩野派の伝統にのつとった謹直な作風を示しているが、芳崖らしい気品高い雰囲気に満ちている。

鹿児島市立美術館学芸員

山西 健夫

ごみ問題と生活環境を考える リサイクル市場



●買物天国…フリーマーケット!

80店が大安売り！ 宝物見～つけた。

●大型リサイクル品無料提供！

市民の皆さんから 提供いただいた家具や電化製品がいっぱい
あるよ。抽選で無料提供。

●中央ステージショー

ストッピーによる楽しいショーやマジックショー、
ごみ減量ウルトラクイズに君もチャレンジしてみよう！

■日時／11月14日(日)・午前10時～午後4時

■場所／鹿児島総合卸商業団地グラウンド(卸本町)

●会場案内図



お問い合わせ／
鹿児島市役所清掃部管理課ごみ減量係
☎24-1111(内線2719)